

高齢者介護をめぐる不安と家族介護の 経験に関する調査

—社会環境調査Ⅰ・社会環境調査Ⅱ実施報告書—

2015年3月

広島大学総合科学部社会文化プログラム

はじめに

広島大学総合科学部社会文化プログラムでは毎年、社会調査士の資格取得に関係した実習的科目を2コマ（4単位）開講しています。「社会環境調査Ⅰ」と「社会環境調査Ⅱ」がそれです。この授業では毎年、担当者がテーマを設定し、それに関係した社会調査を実施することになっています。平成26年度の授業では「高齢者介護」をテーマとして社会調査を企画し、アンケート調査とインタビュー調査を実施しました。本書はその報告書です。

高齢化の進展に伴い介護が必要な人が増えています。2014年2月にその数は全国に580万人。介護保険制度が始まった15年前に比べ、3倍近くに増えました。この傾向が続くと、団塊の世代がすべて75歳以上になる2025年以降には要介護者の数は900万人を超えると予想されます。

このように急増する高齢者介護の大半は依然、家族によって担われています。厚生労働省の調査によると、要介護者の3人に2人を「同居する家族」が介護しています。「別居の家族」による介護を加えると、要介護者の4人に3人は家族による介護です。

ところが近年、家族の介護機能は弱体化しています。高齢の一人世帯や夫婦世帯、共働き世帯の増加が大きな原因です。晩婚化による子育ての時期の遅延や未婚化による単身者の増加も家族の介護をより困難にしています。

このような状況の中で近い将来に大きな不安を抱いている方も少なくないと思います。それは介護する不安であったり、介護を必要とする状態になる不安であったりするかもしれません。他方、多くの方々がすでにご家族の介護に従事していると考えられます。

この調査は、高齢者介護をめぐる不安の様相や家族介護の経験を把握するために、広島大学の教員と学生が企画した調査です。私たちは、この調査によって、高齢者介護をめぐる不安の多様性を明らかにするとともに、迫り来る「大介護時代」に対処するヒントを得たいと考えました。

調査の手順としては、東広島市選挙管理委員会に赴き、選挙人名簿を用いて調査対象者のサンプリングをおこないました。その後、「社会環境調査Ⅰ」の授業で作成した調査票を用い、2014年9月に郵送調査を実施しました。この調査では1200の調査票を配布し、このうち484の有効票を回収しました（回収率40.3%）。「社会環境調査Ⅱ」の授業では調査票に記された回答をコンピュータに入力し、統計ソフトを用いて集計しました。

この報告書はこれらの調査の分析結果です。しかし、これはあくまで第1段階の分析結果です。その次の段階ではこの結果と集計の仕方を見直し、学術的に意義のある分析と説明を組み立てていくことが大きな課題です。

近年、郵送によるアンケート調査は回収率が低下し、この方法での学術調査はますます困難になっています。とくに今回の調査は優れてプライベートな問題を取り扱うため、どれだけの数の回答が返送されるのかを当初、大変不安に思いました。しかし、幸いにして多くの方々から協力が得られ、必要十分な数を超える有効票を確保できました。ご多用中の中で貴重な時間を割いていただき、質問に回答してくださった方々には心から感謝したいと思います。またインタビュー調査にご協力をいただいた方々にも改めてお礼を申し上げます。

この報告書は「社会環境調査Ⅰ」と「社会環境調査Ⅱ」の授業に参加した学生の共同作業の成果です。十分な専門的知識を持たない学生が短期間に行った調査の分析であるため、未熟な点が多々あります。今後のさらなる学習と研究の発展のために、皆様からご意見やご感想をいただければ幸いです。

なお以下の分析ではカイ二乗検定の結果を*で示している。その水準値は、* \leq .05 ** \leq .01
*** \leq .001 となっているのでご注意ください。

2015年3月10日

広島大学大学院総合科学研究科 材木和雄

高齢者介護をめぐる不安と家族介護の経験に関する調査

—社会環境調査Ⅰ・社会環境調査Ⅱ実施報告書—

目次

はじめに

第1章 回答者のプロフィールと介護の経験、介護に対する意識5

第2章 介護を必要とする状態になったときに希望する介護の場所、
介護を任せたい家族、今後5年以内の介護の可能性16

第3章 介護をめぐる不安26

第4章 仕事と介護の関係33

第5章 回答者の介護の実態38

第6章 介護期間・平均介護時間と負担感、介護の場所44

第7章 家族介護に関する意識58

アンケート調査票69

調査のメンバー80

第1章 回答者のプロフィールと介護の経験、介護に対する意識

1. 回答者のプロフィール

表 1-1-1 性別と年齢の構成比

	年齢				合計
	40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	27	40	72	60	199
	5.6%	8.3%	14.9%	12.4%	41.1%
女性	51	81	95	58	285
	10.5%	16.7%	19.6%	12.0%	58.9%
合計	78	121	167	118	484
	16.1%	25.0%	34.5%	24.4%	100.0%

表 1-1-2 介護経験

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	現在介護をしている	0	4	12	0	16
		0.0%	10.0%	16.7%	0.0%	8.0%
	以前介護をしていた	2	7	16	22	47
		7.4%	17.5%	22.2%	36.7%	23.6%
	介護をしたことはない	25	29	44	38	136
		92.6%	72.5%	61.1%	63.3%	68.3%
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	現在介護をしている	5	18	11	7	41
		9.8%	22.2%	11.6%	12.1%	14.4%
	以前介護をしていた	4	23	43	28	98
		7.8%	28.4%	45.3%	48.3%	34.4%
	介護をしたことはない	42	40	41	23	146
		82.4%	49.4%	43.2%	39.7%	51.2%
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 1-1-3 学歴

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	中学校	0	1	8	9	18
		0.0%	2.5%	11.1%	15.0%	9.0%
	高校	8	17	32	31	88
		29.6%	42.5%	44.4%	51.7%	44.2%
	各種学校・専門学校	2	0	6	1	9
		7.4%	0.0%	8.3%	1.7%	4.5%
	高等専門学校	0	3	3	0	6
		0.0%	7.5%	4.2%	0.0%	3.0%
	短大	1	1	1	5	8
		3.7%	2.5%	1.4%	8.3%	4.0%
	大学	14	15	22	9	60
		51.9%	37.5%	30.6%	15.0%	30.2%
	大学院	2	3	0	5	10
		7.4%	7.5%	0.0%	8.3%	5.0%
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	中学校	0	0	7	7	14
		0.0%	0.0%	7.4%	12.1%	4.9%
	高校	17	27	58	39	141
		33.3%	33.3%	61.1%	67.2%	49.5%
	各種学校・専門学校	8	19	9	5	41
		15.7%	23.5%	9.5%	8.6%	14.4%
	高等専門学校	2	2	1	0	5
		3.9%	2.5%	1.1%	0.0%	1.8%
	短大	12	20	12	3	47
		23.5%	24.7%	12.6%	5.2%	16.5%
	大学	11	13	7	3	34
		21.6%	16.0%	7.4%	5.2%	11.9%
	大学院	1	0	1	0	2
		2.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.7%
不明・無回答	0	0	0	1	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.4%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 1-1-4 職業

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	労務・技能職(作業員、運転手、配達員など)	4	10	11	7	32
		14.8%	25.0%	15.3%	11.7%	16.1%
	販売・サービス職(小売店主、飲食店主、販売員、理容師、営業員)	7	2	8	2	19
		25.9%	5.0%	11.1%	3.3%	9.5%
	事務職	1	8	3	0	12
		3.7%	20.0%	4.2%	0.0%	6.0%
	専門職(教員、医師、看護師、保育士、介護士、エンジニアなど)	6	16	5	0	27
		22.2%	40.0%	6.9%	0.0%	13.6%
	管理職(課長級以上の役職、役員)	9	3	7	2	21
		33.3%	7.5%	9.7%	3.3%	10.6%
	農林漁業従事	0	0	7	5	12
		0.0%	0.0%	9.7%	8.3%	6.0%
	無職	0	1	3	0	4
		0.0%	2.5%	4.2%	0.0%	2.0%
無職(年金生活者)	0	0	27	44	71	
	0.0%	0.0%	37.5%	73.3%	35.7%	
その他	0	0	1	0	1	
	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.5%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	労務・技能職(作業員、運転手、配達員など)	9	9	5	2	25
		17.6%	11.1%	5.3%	3.4%	8.8%
	販売・サービス職(小売店主、飲食店主、販売員、理容師、営業員)	6	18	20	9	53
		11.8%	22.2%	21.1%	15.5%	18.6%
	事務職	9	6	5	1	21
		17.6%	7.4%	5.3%	1.7%	7.4%
	専門職(教員、医師、看護師、保育士、介護士、エンジニアなど)	12	21	6	3	42
		23.5%	25.9%	6.3%	5.2%	14.7%
	管理職(課長級以上の役職、役員)	1	1	2	0	4
		2.0%	1.2%	2.1%	0.0%	1.4%
	農林漁業従事	0	1	4	1	6
		0.0%	1.2%	4.2%	1.7%	2.1%
	専業主婦	13	22	19	5	59
		25.5%	27.2%	20.0%	8.6%	20.7%
無職	1	2	4	1	8	
	2.0%	2.5%	4.2%	1.7%	2.8%	
無職(年金生活者)	0	0	30	36	66	
	0.0%	0.0%	31.6%	62.1%	23.2%	
その他	0	1	0	0	1	
	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 1-1-5 勤務形態

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男 性	常勤(正社員・正職員)	26	34	9	2	71
		96.3%	85.0%	12.5%	3.3%	35.7%
	派遣・契約・嘱託	0	2	5	0	7
		0.0%	5.0%	6.9%	0.0%	3.5%
	パート・アルバイト	0	2	7	1	10
		0.0%	5.0%	9.7%	1.7%	5.0%
	自営業・家族従業員	1	1	21	14	37
		3.7%	2.5%	29.2%	23.3%	18.6%
	内職・在宅勤務	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0	1	30	43	74
		0.0%	2.5%	41.7%	71.7%	37.2%
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女 性	常勤(正社員・正職員)	12	18	7	2	39
		23.5%	22.2%	7.4%	3.4%	13.7%
	派遣・契約・嘱託	7	6	2	1	16
		13.7%	7.4%	2.1%	1.7%	5.6%
	パート・アルバイト	16	22	21	4	63
		31.4%	27.2%	22.1%	6.9%	22.1%
	自営業・家族従業員	1	12	12	10	35
		2.0%	14.8%	12.6%	17.2%	12.3%
	内職・在宅勤務	1	0	0	0	1
		2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
	その他	14	23	53	41	131
		27.5%	28.4%	55.8%	70.7%	46.0%
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 1-1-6 昨年度の世帯年収

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	100万円未満	0	2	3	2	7
		0.0%	5.0%	4.2%	3.3%	3.5%
	100~200万円	0	1	8	10	19
		0.0%	2.5%	11.1%	16.7%	9.5%
	200~300万円	1	3	23	28	55
		3.7%	7.5%	31.9%	46.7%	27.6%
	300~400万円	3	5	16	10	34
		11.1%	12.5%	22.2%	16.7%	17.1%
	400~500万円	2	3	9	4	18
		7.4%	7.5%	12.5%	6.7%	9.0%
	500~600万円	6	4	4	3	17
		22.2%	10.0%	5.6%	5.0%	8.5%
	600~800万円	9	7	4	1	21
		33.3%	17.5%	5.6%	1.7%	10.6%
	800~1000万円	4	12	1	0	17
		14.8%	30.0%	1.4%	0.0%	8.5%
	1000万円以上	2	3	4	2	11
		7.4%	7.5%	5.6%	3.3%	5.5%
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	100万円未満	2	1	9	4	16
		3.9%	1.2%	9.5%	6.9%	5.6%
	100~200万円	4	11	23	14	52
		7.8%	13.6%	24.2%	24.1%	18.2%
	200~300万円	4	10	23	18	55
		7.8%	12.3%	24.2%	31.0%	19.3%
	300~400万円	5	7	20	11	43
		9.8%	8.6%	21.1%	19.0%	15.1%
	400~500万円	4	11	10	4	29
		7.8%	13.6%	10.5%	6.9%	10.2%
	500~600万円	9	10	4	3	26
		17.6%	12.3%	4.2%	5.2%	9.1%
	600~800万円	13	16	5	1	35
		25.5%	19.8%	5.3%	1.7%	12.3%
	800~1000万円	6	11	1	0	18
		11.8%	13.6%	1.1%	0.0%	6.3%
	1000万円以上	4	4	0	1	9
		7.8%	4.9%	0.0%	1.7%	3.2%
不明・無回答	0	0	0	2	2	
	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.7%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

2. 介護者の経験と介護に対する意識

表 2-1-1 介護をしている/した期間

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	1年未満	0	0	3	3	6
		0.0%	0.0%	10.7%	13.6%	9.5%
	1年-3年未満	1	5	9	5	20
		50.0%	45.5%	32.1%	22.7%	31.7%
	3年-5年未満	0	4	5	6	15
		0.0%	36.4%	17.9%	27.3%	23.8%
	5年-7年未満	0	0	5	2	7
		0.0%	0.0%	17.9%	9.1%	11.1%
	7年-10年未満	1	1	2	5	9
		50.0%	9.1%	7.1%	22.7%	14.3%
	10年以上	0	1	4	1	6
		0.0%	9.1%	14.3%	4.5%	9.5%
	不明・無回答	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	2	11	28	22	63	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	1年未満	2	10	13	7	32
		22.2%	24.4%	24.1%	20.0%	23.0%
	1年-3年未満	4	9	16	9	38
		44.4%	22.0%	29.6%	25.7%	27.3%
	3年-5年未満	0	6	10	6	22
		0.0%	14.6%	18.5%	17.1%	15.8%
	5年-7年未満	1	3	6	7	17
		11.1%	7.3%	11.1%	20.0%	12.2%
	7年-10年未満	0	8	4	1	13
		0.0%	19.5%	7.4%	2.9%	9.4%
	10年以上	2	5	4	5	16
		22.2%	12.2%	7.4%	14.3%	11.5%
	不明・無回答	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.7%
合計	9	41	54	35	139	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

5年未満で全体のおよそ3分の2を占めるが、1年未満から10年以上まで全体に広く分布している。

表 2-1-2 一日の平均介護時間

		年齢				合計	
		40-49	50-59	60-69	70-79		
男性	4 時間以内	2	8	16	10	36	
		100.0%	72.7%	57.1%	45.5%	57.1%	
	4-8 時間	0	0	3	8	11	
		0.0%	0.0%	10.7%	36.4%	17.5%	
	8-12 時間	0	2	2	3	7	
		0.0%	18.2%	7.1%	13.6%	11.1%	
	12 時間以上	0	1	7	1	9	
		0.0%	9.1%	25.0%	4.5%	14.3%	
	不明・無回答	0	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	合計	2	11	28	22	63	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	女性	4 時間以内	3	22	26	15	66
			33.3%	53.7%	48.1%	42.9%	47.5%
4-8 時間		1	10	15	7	33	
		11.1%	24.4%	27.8%	20.0%	23.7%	
8-12 時間		2	4	4	4	14	
		22.2%	9.8%	7.4%	11.4%	10.1%	
12 時間以上		3	4	7	9	23	
		33.3%	9.8%	13.0%	25.7%	16.5%	
不明・無回答		0	1	2	0	3	
		0.0%	2.4%	3.7%	0.0%	2.2%	
合計		9	41	54	35	139	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

平均介護時間は 4 時間以内が半数であるが、8 時間以上という長時間の介護も四分の一を占めている。人によっては介護の負担が非常に重い物であることが予想できる。

表 2-1-3 要介護者のいる場所と自宅との距離

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	同居	1	5	19	12	37
		50.0%	45.5%	67.9%	54.5%	58.7%
	自宅から片道 30 分以内	1	4	6	5	16
		50.0%	36.4%	21.4%	22.7%	25.4%
	自宅から片道 30 分から 1 時間	0	2	1	3	6
		0.0%	18.2%	3.6%	13.6%	9.5%
	自宅から 1 時間から 2 時間	0	0	0	2	2
		0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	3.2%
	自宅から片道 2 時間以上	0	0	2	0	2
		0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	3.2%
	不明・無回答	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	2	11	28	22	63
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	同居	6	22	27	21	76
		66.7%	53.7%	50.9%	60.0%	55.1%
	自宅から片道 30 分以内	1	7	16	10	34
		11.1%	17.1%	30.2%	28.6%	24.6%
	自宅から片道 30 分から 1 時間	2	9	4	1	16
		22.2%	22.0%	7.5%	2.9%	11.6%
	自宅から 1 時間から 2 時間	0	2	5	1	8
		0.0%	4.9%	9.4%	2.9%	5.8%
	自宅から片道 2 時間以上	0	1	0	0	1
		0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.7%
	不明・無回答	0	0	1	2	3
		0.0%	0.0%	1.9%	5.7%	2.2%
	合計	9	41	53	35	138
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表より、回答者のうち家族を介護している、またはしていた人は同居での介護が過半数であり、別居の場合も近距離が多く二時間以上の遠距離での介護はごくわずかである。

表 2-1-4 介護を続けることについて

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	最期まで介護を続けたい	1	3	11	6	21
		50.0%	27.3%	39.3%	27.3%	33.3%
	できるだけ介護を続けたい	1	7	13	11	32
		50.0%	63.6%	46.4%	50.0%	50.8%
	できれば介護をやめたい	0	1	3	3	7
		0.0%	9.1%	10.7%	13.6%	11.1%
	早期に介護をやめたい	0	0	1	1	2
		0.0%	0.0%	3.6%	4.5%	3.2%
	不明・無回答	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	1.6%
合計	2	11	28	22	63	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	最期まで介護を続けたい	3	19	24	18	64
		33.3%	46.3%	44.4%	51.4%	46.0%
	できるだけ介護を続けたい	5	15	22	14	56
		55.6%	36.6%	40.7%	40.0%	40.3%
	できれば介護をやめたい	1	4	6	3	14
		11.1%	9.8%	11.1%	8.6%	10.1%
	早期に介護をやめたい	0	3	1	0	4
		0.0%	7.3%	1.9%	0.0%	2.9%
	不明・無回答	0	0	1	0	1
		0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	0.7%
合計	9	41	54	35	139	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

多くの介護者が介護を継続したいと思っていることがわかる。

表 2-1-5 介護の励みとなるものはある/あったか

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	ある/あった	2	7	20	15	44
		100.0%	63.6%	71.4%	68.2%	69.8%
	ない/なかった	0	4	8	7	19
		0.0%	36.4%	28.6%	31.8%	30.2%
	合計	2	11	28	22	63
100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	ある/あった	7	29	35	25	96
		77.8%	70.7%	64.8%	71.4%	69.1%
	ない/なかった	2	12	19	10	43
		22.2%	29.3%	35.2%	28.6%	30.9%
	合計	9	41	54	35	139
100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

このように、東広島の介護者の多くが介護をするにあたって何か励みとなるものを持っていたことがわかる。

さらに、この問いで「ある/あった」と答えた人に励みとなるものは何であるか、または何であったかを聞いた結果が以下である。

表 2-1-6 介護の励みとなるものは何であるか/あったか（複数回答）

	男性	女性	合計
要介護者の笑顔や健やかな表情	20	51	71
	45.5%	53.7%	51.1%
要介護者が世話に感謝している、 喜んでいると感じること	26	55	81
	59.1%	57.9%	58.3%
要介護者もがんばっていると感じる こと	16	38	54
	36.4%	40.0%	38.8%
その他の家族からの励みやねぎ らい	12	44	56
	27.3%	46.3%	40.3%
ヘルパー、ケアマネジャー、医師・ 看護師からの励みやねぎらい	18	39	57
	40.9%	41.1%	41.0%
近所や地域の人びとからの励まし やねぎらい	6	20	26
	13.6%	21.1%	18.7%
要介護者の状態がよくなること	11	20	31
	25.0%	21.1%	22.3%
同じ悩みや経験をもつ人からの励 ましやねぎらい	5	30	35
	11.4%	31.6%	25.2%
友人・知人からの励みやねぎらい	6	31	37
	13.6%	32.6%	26.6%
その他	0	6	6
	0.0%	6.3%	4.3%

（パーセンテージは応答者数に基づく）

この結果から、介護の励みとなるものは要介護者本人から得る場合が最も多く、次いで介護・医療関係者や家族の励まし、そしてその他の友人・知人からの励ましであることがわかる。励みとなるものとして要介護者の状態がよくなることが少数なのは、介護というものの特性上、要介護者の状態がよくなることが少ないためだと思われる。

第2章 介護を必要とする状態になったときに希望する介護の場所、介護を任せたい家族、今後5年以内の介護の可能性

はじめに

本章では、回答者がどのような介護のあり方を希望しているのかについて考察する。まず回答者本人が要介護状態になった時を想定して、要介護度に応じた生活の場所、在宅介護の担い手についての要望を見ていく。次に回答者の家族が要介護状態になった時を想定して、介護を受けさせる場所、在宅介護の担い手についての要望を見ていく。これらの調査結果をもとにして、希望する介護形態に関しての年齢別、性別の相違点について明らかにしていきたい。

1 回答者が要介護状態である場合

以下、表 2-1-1～2-1-3 で、元気な場合／軽い介護が必要な状態になった場合／重度の介護が必要になった場合 の三段階に応じて、回答者がどこに住みたいかという質問に対する回答を見ていく。

表 2-1-1 「年齢」と「元気な場合の高齢期の生活場所」とのクロス

			年齢				合計
			40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	元気な場合の高齢者の生活場所	自宅	26	37	66	55	184
			96.3%	92.5%	91.7%	91.7%	92.5%
	子の住宅	0	0	1	0	1	
		0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.5%	
	介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム	1	1	3	4	9	
		3.7%	2.5%	4.2%	6.7%	4.5%	
	その他	0	2	2	1	5	
		0.0%	5.0%	2.8%	1.7%	2.5%	
合計		27	40	72	60	199	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	元気な場合の高齢者の生活場所	自宅	49	73	89	51	262
			96.1%	90.1%	93.7%	87.9%	91.9%
	子の住宅	0	2	1	0	3	
		0.0%	2.5%	1.1%	0.0%	1.1%	
	介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム	2	5	3	7	17	
		3.9%	6.2%	3.2%	12.1%	6.0%	
	その他	0	1	2	0	3	
		0.0%	1.2%	2.1%	0.0%	1.1%	
合計		51	81	95	58	285	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

上記の表では、まだ元気な場合は、回答者全体の約9割が「自宅」に住みたいと答えている。

表 2-1-2 「年齢」と「軽い介護が必要な状態の生活場所」とのクロス

			年齢				合計
			40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	軽い介護が必要な 時の生活の場所	自宅	19	25	54	44	142
			70.4%	62.5%	75.0%	73.3%	71.4%
	子の住宅	0	2	1	0	3	
		0.0%	5.0%	1.4%	0.0%	1.5%	
	介護が可能な高齢者住 宅や有料老人ホーム	8	11	13	15	47	
		29.6%	27.5%	18.1%	25.0%	23.6%	
	その他	0	2	4	1	7	
		0.0%	5.0%	5.6%	1.7%	3.5%	
合計		27	40	72	60	199	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	軽い介護が必要な 時の生活の場所	自宅	34	52	73	41	200
			66.7%	64.2%	76.8%	70.7%	70.2%
	子の住宅	4	6	1	0	11	
		7.8%	7.4%	1.1%	0.0%	3.9%	
	介護が可能な高齢者住 宅や有料老人ホーム	13	21	19	16	69	
		25.5%	25.9%	20.0%	27.6%	24.2%	
	その他	0	2	2	1	5	
		0.0%	2.5%	2.1%	1.7%	1.8%	
合計		51	81	95	58	285	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

軽い介護が必要な状態になった場合、回答者全体の約7割が「自宅」に住みたいと答えているものの、「介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム」と答えた人が約2割に増加している。

表 2-1-3 「年齢」と「重度の介護が必要な状態の生活場所」とのクロス

		年齢				合計

			40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	重度の介護が必要になった時の生活の場所	自宅	4	8	10	9	31
			14.8%	20.0%	13.9%	15.0%	15.6%
		子の住宅	0	0	1	0	1
			0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.5%
		介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム	9	15	24	17	65
			33.3%	37.5%	33.3%	28.3%	32.7%
		特別養護老人ホームや老人保健施設	13	15	34	33	95
			48.1%	37.5%	47.2%	55.0%	47.7%
	その他	1	2	3	1	7	
3.7%		5.0%	4.2%	1.7%	3.5%		
合計			27	40	72	60	199
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	重度の介護が必要になった時の生活の場所	自宅	7	10	8	14	39
			13.7%	12.3%	8.4%	24.1%	13.7%
		子の住宅	1	1	1	0	3
			2.0%	1.2%	1.1%	0.0%	1.1%
		介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム	25	33	31	15	104
			49.0%	40.7%	32.6%	25.9%	36.5%
		特別養護老人ホームや老人保健施設	16	37	50	29	132
			31.4%	45.7%	52.6%	50.0%	46.3%
		その他	2	0	4	0	6
	3.9%		0.0%	4.2%	0.0%	2.1%	
不明・無回答	0	0	1	0	1		
	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.4%		
合計			51	81	95	58	285
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

重度の介護が必要な状態になった場合、「自宅」と答えた人は回答者全体の 14.4%にとどまる。一方で「介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム」は 34.9%に、「特別養護老人ホームや老人保健施設」は 46.9%にそれぞれ増加している。ここまでは性別、年齢によって回答に大きな差は見られなかった。

表 2-2-1 在宅で介護を受ける場合、家族の誰に介護を任せたいか（複数回答、2つまで選択可）

		年齢				合計
		40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	自分の配偶者	19	29	53	50	151
		70.4%	72.5%	73.6%	83.3%	75.9%
	自分の息子	5	3	12	5	25
		18.5%	7.5%	16.7%	8.3%	12.6%
	息子の妻(嫁)	1	0	3	3	7
		3.7%	0.0%	4.2%	5.0%	3.5%
	自分の娘	4	6	12	16	38
		14.8%	15.0%	16.7%	26.7%	19.1%
	自分の兄弟	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.5%
自分の姉妹	0	0	1	0	1	
	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	0.5%	
家族の誰にも介護を任せたくない	6	9	11	4	30	
	22.2%	22.5%	15.3%	6.7%	15.1%	
介護を任せる家族はいない	1	4	9	7	21	
	3.7%	10.0%	12.5%	11.7%	10.6%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	自分の配偶者	23	41	56	23	143
		45.1%	50.6%	58.9%	39.7%	50.2%
	自分の息子	4	11	14	11	40
		7.8%	13.6%	14.7%	19.0%	14.0%
	息子の妻(嫁)	1	2	8	9	20
		2.0%	2.5%	8.4%	15.5%	7.0%
	自分の娘	15	28	30	20	93
		29.4%	34.6%	31.6%	34.5%	32.6%
	孫	0	1	0	0	1
		0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.4%
	自分の兄弟	1	0	2	0	3
		2.0%	0.0%	2.1%	0.0%	1.1%
	自分の姉妹	1	1	2	2	6
		2.0%	1.2%	2.1%	3.4%	2.1%
その他の親族	1	0	1	1	3	
	2.0%	0.0%	1.1%	1.7%	1.1%	
家族の誰にも介護を任せたくない	14	19	18	8	59	
	27.5%	23.5%	18.9%	13.8%	20.7%	
介護を任せる家族はいない	6	5	7	7	25	
	11.8%	6.2%	7.4%	12.1%	8.8%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

2 介護を任せたい家族

上記の表 2-2-1 は、仮に回答者自身が在宅で介護を受ける場合、家族の誰に介護を任せたいかという質問に対する回答である。

回答者全体で見ると、「配偶者」に介護を任せたいという人が最も多く、次いで「自分の娘」「自分の息子」「息子の妻（嫁）」の順になっている。それ以外の選択肢に回答した人はごく少数である。

年齢で特に違いは見られなかったが、性別に見ると「配偶者」と回答した人は男性で 75.9%、女性で 50.2%と大きな差が生じた。一方で「自分の娘」と回答した人は男性で 19.1%、女性で 32.6%となっている。この結果、男性は配偶者に、女性は自分の娘に介護を期待する傾向が多少強いことが見て取れる。

3 回答者の家族が要介護状態である場合

本節では、回答者の家族が要介護状態になった時、希望する介護の場所、在宅介護の形態、在宅介護の担い手について明らかにする。なお本節に該当する調査票内の項目である問 18～問 20 はすべて、問 17 において「これまでに介護をしたことがない」と答えた回答者に対しての質問である。

以下、表 2-3-1 は、今後 5 年間のうちに回答者が介護する可能性のある家族についての回答である。

表 2-3-1 今後 5 年以内に介護する可能性のある家族（複数回答）

		年齢				合計
		40~49	50~59	60~69	70~79	
男 性	自分の父親	5	8	2	0	15
		50.0%	38.1%	8.0%	0.0%	19.0%
	自分の母親	10	17	12	0	39
		100.0%	81.0%	48.0%	0.0%	49.4%
	配偶者	0	1	8	21	30
		0.0%	4.8%	32.0%	91.3%	38.0%
	配偶者の父親	1	4	4	1	10
		10.0%	20.0%	16.0%	4.3%	12.8%
	配偶者の母親	2	4	7	1	14
		20.0%	19.0%	28.0%	4.3%	17.7%
その他の親族	0	0	0	2	2	
	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	2.5%	
合計	10	21	25	23	79	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女 性	自分の父親	18	17	0	0	35
		58.1%	36.2%	0.0%	0.0%	26.7%
	自分の母親	17	33	9	2	61
		54.8%	70.2%	28.1%	9.5%	46.6%
	自分の祖父母	2	0	0	0	2
		6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
	配偶者	0	2	15	17	34
		0.0%	4.3%	46.9%	81.0%	26.0%
	配偶者の父親	9	9	2	0	20
		29.0%	19.1%	6.3%	0.0%	15.3%
	配偶者の母親	14	18	10	0	42
		45.2%	38.3%	31.3%	0.0%	32.1%
	その他の親族	0	2	2	1	5
		0.0%	4.3%	6.3%	4.8%	3.8%
合計	31	47	32	21	131	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

パーセンテージと合計は設問に対する応答者数を基に計算されている。

今後 5 年間のうちに介護する可能性がある家族については、回答の多かった順に「自分の母親」「配偶者」「配偶者の母親」「自分の父親」「配偶者の父親」となっている。

年代別では、自分の両親という回答が 40、50 代に、配偶者という回答が 60、70 代に比較的多い。

以下、表 2-3-2～2-3-3 は、要介護状態の家族に対して介護を受けさせたい場所、また在宅介護を行う場合の介護形態について、それぞれ分析したものである。

表 2-3-2 「年齢」と「家族に介護を受けさせたい場所」とのクロス

			年齢				合計
			40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	家族が要介護者となったらどこで介護を受けさせたいか	自宅	12	16	21	18	67
			48.0%	55.2%	47.7%	47.4%	49.3%
		介護が可能な高齢住宅	6	4	4	6	20
		や有料老人ホーム	24.0%	13.8%	9.1%	15.8%	14.7%
		特別養護老人ホームや	6	8	17	12	43
		老人保健施設	24.0%	27.6%	38.6%	31.6%	31.6%
		その他の場所	1	1	0	2	4
			4.0%	3.4%	0.0%	5.3%	2.9%
	不明・無回答	0	0	2	0	2	
		0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	1.5%	
合計			25	29	44	38	136
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	家族が要介護者となったらどこで介護を受けさせたいか	自宅	23	24	20	12	79
			54.8%	60.0%	48.8%	52.2%	54.1%
		介護が可能な高齢住宅	9	2	10	5	26
		や有料老人ホーム	21.4%	5.0%	24.4%	21.7%	17.8%
		特別養護老人ホームや	9	12	10	5	36
		老人保健施設	21.4%	30.0%	24.4%	21.7%	24.7%
		その他の場所	1	2	1	0	4
			2.4%	5.0%	2.4%	0.0%	2.7%
	不明・無回答	0	0	0	1	1	
		0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.7%	
合計			42	40	41	23	146
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-3-3 「年齢」と「在宅で介護をする場合の介護形態」とのクロス

			年齢				合計
			40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	在宅で介護をする 事態になった場合 の介護形態	家族のみで介護	0	0	1	0	1
			0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.7%
		家族の介護を中心にする	6	8	15	13	42
			24.0%	27.6%	34.1%	34.2%	30.9%
		外部の介護サービスの 利用を中心にする	17	20	21	20	78
			68.0%	69.0%	47.7%	52.6%	57.4%
		外部の介護サービスだ けを利用する	1	0	3	3	7
	4.0%		0.0%	6.8%	7.9%	5.1%	
	分からない	1	1	4	2	8	
		4.0%	3.4%	9.1%	5.3%	5.9%	
合計			25	29	44	38	136
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	在宅で介護をする 事態になった場合 の介護形態	家族の介護を中心にする	16	12	10	6	44
			38.1%	30.0%	24.4%	26.1%	30.1%
		外部の介護サービスの 利用を中心にする	23	24	27	17	91
			54.8%	60.0%	65.9%	73.9%	62.3%
		外部の介護サービスだ けを利用する	0	2	0	0	2
			0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	1.4%
		その他	1	0	0	0	1
	2.4%		0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	
	分からない	2	2	4	0	8	
		4.8%	5.0%	9.8%	0.0%	5.5%	
合計			42	40	41	23	146
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 2-3-2 からは、家族に対して介護を受けさせたい場所として回答者全体の約半数が「自宅」と答えていることが分かる。

表 2-3-3 では、希望する在宅介護のあり方として回答者の約 6 割が「外部の介護サービスの利用を中心にする」と答えた。「家族のみで介護する」と答えた人は全体で 1 名のみだった。

以下、表 2-3-4 は、回答者の家族が在宅で介護を受ける場合、誰が世話や介護をすることになりそうかという質問に対する回答である。

表 2-3-4 家族が介護を受けることになった場合の世話人、介護人（複数回答、3つまで選択可）

		年齢				合計
		40~49	50~59	60~69	70~79	
男性	自分自身	19	21	36	27	103
		76.0%	72.4%	81.8%	71.1%	75.7%
	自分の配偶者	16	21	29	25	91
		64.0%	72.4%	65.9%	65.8%	66.9%
	自分の息子	2	3	8	6	19
		8.0%	10.3%	18.2%	15.8%	14.0%
	息子の妻(嫁)	0	1	2	2	5
		0.0%	3.4%	4.5%	5.3%	3.7%
	自分の娘	2	7	9	8	26
		8.0%	24.1%	20.5%	21.1%	19.1%
	自分の兄弟	3	2	2	1	8
		12.0%	6.9%	4.5%	2.6%	5.9%
自分の姉妹	2	0	1	1	4	
	8.0%	0.0%	2.3%	2.6%	2.9%	
その他の家族	1	1	0	0	2	
	4.0%	3.4%	0.0%	0.0%	1.5%	
訪問介護ヘルパー	13	17	22	24	76	
	52.0%	58.6%	50.0%	63.2%	55.9%	
合計	25	29	44	38	136	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	自分自身	38	40	31	16	125
		90.5%	100.0%	75.6%	69.6%	85.6%
	自分の配偶者	15	13	21	9	58
		35.7%	32.5%	51.2%	39.1%	39.7%
	自分の息子	1	4	9	5	19
		2.4%	10.0%	22.0%	21.7%	13.0%
	息子の妻(嫁)	1	0	4	4	9
		2.4%	0.0%	9.8%	17.4%	6.2%
	自分の娘	3	3	11	10	27
		7.1%	7.5%	26.8%	43.5%	18.5%
	自分の兄弟	2	3	1	0	6
		4.8%	7.5%	2.4%	0.0%	4.1%
自分の姉妹	4	6	1	0	11	
	9.5%	15.0%	2.4%	0.0%	7.5%	
その他の家族	2	2	0	0	4	
	4.8%	5.0%	0.0%	0.0%	2.7%	
訪問介護ヘルパー	14	23	20	13	70	
	33.3%	57.5%	48.8%	56.5%	47.9%	
合計	42	40	41	23	146	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

パーセンテージと合計は設問に対する応答者数を基に計算されている。

上記の表では、家族が在宅介護を受ける場合、予想される世話人、介護人については、回答の多かった順に「自分自身」「自分の配偶者」「訪問介護ヘルパー」「自分の娘」「自分の息子」となっている。

性別にみると、「配偶者」と回答した人は男性で66.9%、女性で39.7%と大きな差が見られた。

年齢別にみると、「自分自身」と回答した人が50～59歳の女性で100%であることが注目される。表2-1-2では予想される要介護者として「自分の母親」という回答が最も多かった。よって娘が母親を介護する可能性を考える傾向が強いことが見てとれる。

まとめ

本章の回答分析から、人々が希望する介護形態について次のような傾向が考えられる。高齢期の生活場所として自宅を希望する人は多いが、要介護度が上がるにつれて老人ホームや老人保健施設を希望する回答者は増加している。また在宅介護を受けることになった場合、男性は配偶者に、女性は自分の娘に介護を期待する傾向があり、男女の意識差が明らかになった。

家族が介護を必要とする状態になった場合、介護を受けさせる場所は「自宅」と「自宅以外」のほぼ半数に分かれた。また在宅介護を行う場合も、家族の介護よりも外部の介護サービスを中心において考える人が多いことがわかった。

以上の結果から、要介護状態になった場合は外部から介護の手が加わることを要望する声が強いと見える。介護の担い手については性別、年齢別の違いがみられるものの、多くの場合は実の親子間や夫婦間で介護を担うことが望まれている。

第3章 介護をめぐる不安

この章では、回答者が介護に対して不安を持っているか、どのような介護の見通しを立てているかについてまとめた。また、不安の内容や、介護にかかわる制度についての理解度の結果を参考にしながら、回答者の介護に対する意識を考察していく。

1 介護に不安を感じることもあるか

問1「回答者自身が、将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」、問2「回答者の家族が将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」では、回答者自身、あるいは回答者の家族が将来介護を必要とする状態になるかもしれないと不安に思うかどうかについて尋ねた。

表3-1-1 「年齢」と「回答者自身が将来に介護を必要とする状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」のクロス

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-71	
男性	よくある	1 3.70%	9 22.50%	9 12.50%	11 18.30%	30 15.10%
	時々ある	15 55.60%	17 42.50%	37 51.40%	33 55.00%	102 51.30%
	あまりない	7 25.90%	9 22.50%	20 27.80%	10 16.70%	46 23.10%
	まったくない	3 11.10%	3 7.50%	2 2.80%	1 1.70%	9 4.50%
	わからない	1 3.70%	1 2.50%	4 5.60%	4 6.70%	10 5.00%
	すでに要介護状態	0 0.00%	1 2.50%	0 0.00%	1 1.70%	2 1.00%
	合計	27 100.00%	40 100.00%	72 100.00%	60 100.00%	199 100.00%
女性	よくある	6 11.80%	21 25.90%	19 20.00%	12 20.70%	58 20.40%
	時々ある	30 58.80%	43 53.10%	49 51.60%	33 56.90%	155 54.40%
	あまりない	10 19.60%	10 12.30%	18 18.90%	8 13.80%	46 16.10%
	まったくない	1 2.00%	1 1.20%	3 3.20%	1 1.70%	6 2.10%
	わからない	4 7.80%	6 7.40%	3 3.20%	4 6.90%	17 6.00%
	すでに要介護状態	0 0.00%	0 0.00%	3 3.20%	0 0.00%	3 1.10%
	合計	51 100.00%	81 100.00%	95 100.00%	58 100.00%	285 100.00%

「不安を感じるがよくある」と答えた人が、男性の場合は70-79層の人が多いのに対し、女性

は 50-59 層、60-69 層に集中している。「時々ある」と答えた人も、男性は高年齢層にかたまっており、すべての年代で高めだった女性と比較すると、女性の方が早期から不安を感じている割合が高いことが見て取れる。多少なりとも不安を感じている人は男女とも 60 パーセント以上に上り、「わからない」、「すでに要介護状態」と答えた人を除くと、90%以上の方が介護に関する意識を持っていることが分かる。また、厚生労働省が平成 25 年に実施した、『国民生活基礎調査』によると、要介護者の年齢層は 40-49 層から 70-79 層で 3 割を占めている一方、今回の調査では、調査対象であるこの年代にほとんど要介護状態である回答者が見られなかった。

表 3-1-2 「年齢」と「回答者の家族が将来介護を必要とする状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」のクロス 女性***

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	よくある	4 14.80%	12 30.00%	15 20.80%	12 20.00%	43 21.60%
	時々ある	15 55.60%	19 47.50%	33 45.80%	32 53.30%	99 49.70%
	あまりない	7 25.90%	1 2.50%	13 18.10%	10 16.70%	31 15.60%
	まったくない	0 0.00%	1 2.50%	2 2.80%	0 0.00%	3 1.50%
	わからない	1 3.70%	1 2.50%	1 1.40%	2 3.30%	5 2.50%
	すでに要介護状態	0 0.00%	5 12.50%	7 9.70%	1 1.70%	13 6.50%
	家族はいない	0 0.00%	1 2.50%	1 1.40%	3 5.00%	5 2.50%
	合計	27 100.00%	40 100.00%	72 100.00%	60 100.00%	199 100.00%
女性	よくある	16 31.40%	27 33.30%	15 15.80%	10 17.20%	68 23.90%
	時々ある	22 43.10%	35 43.20%	44 46.30%	19 32.80%	120 42.10%
	あまりない	7 13.70%	3 3.70%	18 18.90%	10 17.20%	38 13.30%
	まったくない	0 0.00%	0 0.00%	5 5.30%	2 3.40%	7 2.50%
	わからない	2 3.90%	2 2.50%	4 4.20%	5 8.60%	13 4.60%
	すでに要介護状態	4 7.80%	12 14.80%	8 8.40%	3 5.20%	27 9.50%
	家族はいない	0 0.00%	2 2.50%	1 1.10%	8 13.80%	11 3.90%
	不明・無回答	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 1.70%	1 0.40%
	合計	51 100.00%	81 100.00%	95 100.00%	58 100.00%	285 100.00%

問 1 「回答者自身が、将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」と同

様に問 2「回答者の家族が将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」でも、「よくある」、「時々ある」と答えた人は男性の場合は高年齢層、女性の場合は 50-59 層、60-69 層に多く見られる。

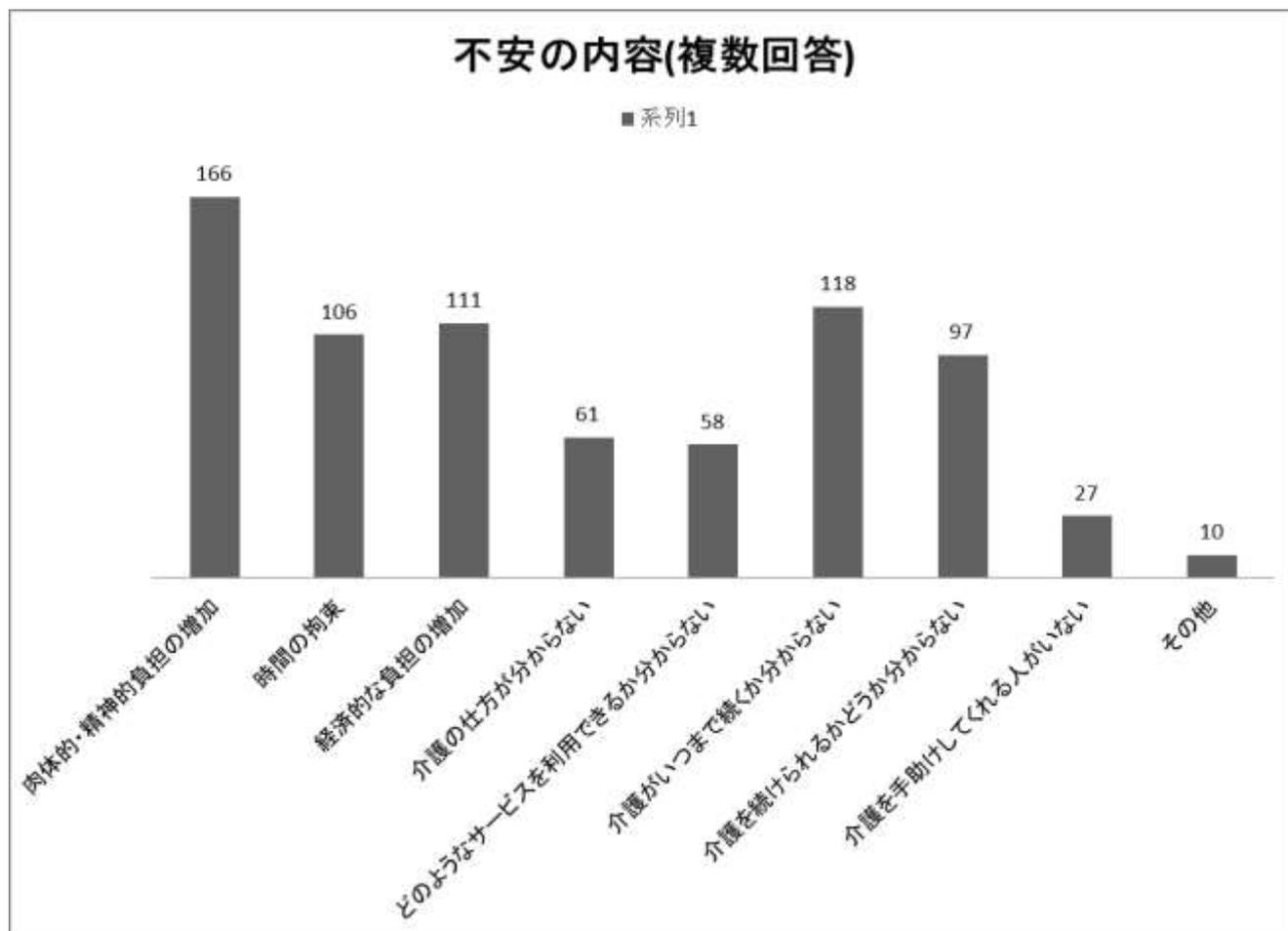
2 将来の介護に関する不安の程度

問 11「今後 5 年のうちにあなたが直面する可能性がある介護について、どの程度の不安を感じますか」では、問 9「今後 5 年のうちに、あなたはご家族を介護する可能性があると考えますか。現在介護している方も別のご家族を介護する可能性をお考えください」において、「今後 5 年間に介護をする可能性がある」と答えた人が、どのような不安を感じているか尋ねた。また、「仕事を続けられるかどうか」を尋ねることで、介護をしながらの仕事についてどのような見通しを持っているのかを調べた。

表 3-2-1 「年齢」と「今後 5 年のうちに回答者が直面する可能性がある介護について、どの程度の不安を感じるか」のクロス

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	非常に不安を感じる	2 20.00%	8 34.80%	9 26.50%	8 34.80%	27 30.00%
	多少不安を感じる	6 60.00%	12 52.20%	18 52.90%	14 60.90%	50 55.60%
	あまり不安を感じない	2 20.00%	2 8.70%	6 17.60%	1 4.30%	11 12.20%
	まったく不安を感じない	0 0.00%	1 4.30%	1 2.90%	0 0.00%	2 2.20%
	合計	10 100.00%	23 100.00%	34 100.00%	23 100.00%	90 100.00%
女性	非常に不安を感じる	15 46.90%	21 38.20%	13 36.10%	10 43.50%	59 40.40%
	多少不安を感じる	11 34.40%	28 50.90%	18 50.00%	10 43.50%	67 45.90%
	あまり不安を感じない	4 12.50%	4 7.30%	4 11.10%	3 13.00%	15 10.30%
	まったく不安を感じない	0 0.00%	1 1.80%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.70%
	無回答	2 6.30%	1 1.80%	1 2.80%	0 0.00%	4 2.70%
	合計	32 100.00%	55 100.00%	36 100.00%	23 100.00%	146 100.00%

問1「回答者自身が、将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」、問2「回答者の家族が将来に介護が必要な状態になるかもしれないと不安に思うことがあるか」と同じく、「非常に不安を感じる」、「多少不安を感じる」と答えた人は、男女とも80%を超えている。また、男性の若年層が不安をあまり感じていないのに対し、女性は50-59代を中心に、早い時期から不安感を持っている人が多い。また、男女とも、「全く不安を感じない」と答えた人はほとんどおらず、多くの人が少なからず介護に対して不安を感じていることが分かる。



上のグラフは、問11「今後5年のうちにあなたが直面する可能性がある介護について、どの程度の不安を感じますか」において、「非常に不安を感じる」「多少不安を感じる」と答えた人が感じている不安の内容をまとめたものである。回答の対象となった207名のうち、「肉体的・精神的な負担の増加」が不安であると回答した人は、80%にも上る。また、「介護がいつまで続くか分からない」「介護を続けられるかどうか分からない」など、介護期間が予測できないことに関係する不安を感じている人も多く見られた。

表3-2-2 「年齢」と「介護をする子になった場合に仕事を続けられるか」のクロス
男性*** 女性**

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	続けられる	1 10.00%	2 9.10%	6 17.60%	1 4.30%	10 11.20%
	続けられない	2 20.00%	9 40.90%	4 11.80%	5 21.70%	20 22.50%
	分からない	7 70.00%	11 50.00%	9 26.50%	1 4.30%	28 31.50%
	現在仕事をしていない	0 0.00%	0 0.00%	14 41.20%	15 65.20%	29 32.60%
	不明・無回答	0 0.00%	0 0.00%	1 2.90%	1 4.30%	2 2.20%
	合計	10 100.00%	22 100.00%	34 100.00%	23 100.00%	89 100.00%
	女性	続けられる	4 12.50%	5 9.10%	2 5.60%	0 0.00%
続けられない	11 34.40%	17 30.90%	7 19.40%	4 17.40%	39 26.70%	
分からない	8 25.00%	18 32.70%	4 11.10%	4 17.40%	34 23.30%	
現在仕事をしていない	7 21.90%	14 25.50%	21 58.30%	15 65.20%	57 39.00%	
不明・無回答	2 6.30%	1 1.80%	2 5.60%	0 0.00%	5 3.40%	
合計	32 100.00%	55 100.00%	36 100.00%	23 100.00%	146 100.00%	

全体を通じて、「現在仕事をしていない」と答えた人を除くと「続けられない」「分からない」とこを与えた人が多い。これは、回答者の多くが「今後介護をする可能性がある」、あるいは「すでに介護をしている」ためであると考えられる。その中でも特に、50-59層は「続けられない」「分からない」と答える人の割合が高くなっている。また、「続けられない」と答えた人は40-49層を除いて女性の方が高くなっており、女性の方が仕事をやめて介護に従事することが多いことを表している。また、「わからない」と答えた人は男性の方が多く、介護に直面した時のビジョンをはっきりと持てていないことを表しているともいえる。こうしたことから、「介護が差し迫っている」、または「現在介護をしている」人にとって、仕事と介護を両立することは難しいと思われているということが分かる。中でも50-59層は特にその傾向が強くなっている。

3 介護保険制度の内容や利用方法の理解度

この調査では、介護保険制度の内容や利用方法についてどの程度知っているかを尋ねた。「介護経験の有無」とクロスさせ、経験者と未経験者でどのような差があるかを調べた。

表3-3-1 「年齢」と「介護保険制度の内容や利用方法についてどの程度知っているか」のクロス
女性***

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	よく知っている	1 3.70%	1 2.50%	2 2.80%	0 0.00%	4 2.00%
	ある程度知っている	3 11.10%	12 30.00%	22 30.60%	25 41.70%	62 31.20%
	あまり知らない	16 59.30%	24 60.00%	38 52.80%	25 41.70%	103 51.80%
	まったく知らない	7 25.90%	3 7.50%	10 13.90%	10 16.70%	30 15.10%
	合計	27 100.00%	40 100.00%	72 100.00%	60 100.00%	199 100.00%
女性	よく知っている	3 5.90%	5 6.20%	3 3.20%	1 1.70%	12 4.20%
	ある程度知っている	8 15.70%	36 44.40%	41 43.20%	26 44.80%	111 38.90%
	あまり知らない	25 49.00%	38 46.90%	44 46.30%	26 44.80%	133 46.70%
	まったく知らない	15 29.40%	2 2.50%	7 7.40%	5 8.60%	29 10.20%
	合計	51 100.00%	81 100.00%	95 100.00%	58 100.00%	285 100.00%

年齢とのクロスでは、男女とも、「ある程度知っている」「あまり知らない」が多くを占めている。介護保険制度は40代から関わるものであるが、仕組みとして理解している人はあまり多くないと思われる。また、「よく知っている」「ある程度知っている」と答えた人の割合は、どの年代においても女性の方が高くなっている。

表3-3-2 「介護経験の有無」と

「介護保険制度の内容や利用方法についてどの程度知っているか」のクロス ***

	介護経験の有無			合計
	現在介護をしている	以前介護をしていた	介護をしたことはない	
よく知っている	5 8.80%	7 4.80%	4 1.40%	16 3.30%
ある程度知っている	33 57.90%	71 49.00%	69 24.50%	173 35.70%
あまり知らない	17 29.80%	58 40.00%	161 57.10%	236 48.80%
まったく知らない	2 3.50%	9 6.20%	48 17.00%	59 12.20%
合計	57 100.00%	145 100.00%	282 100.00%	484 100.00%

当然のことであるが、「介護経験」と「理解度」のクロスからは、介護経験の有無が制度の理解度に大きな影響を与えているということがはっきりとわかる。「よく知っている」、「ある程度知っている」と答えた人の割合は、いずれも「現在介護をしている」人が一番高くなっている。一方で、「あまり知らない」、「全く知らない」と答えた人の割合は、「介護をしたことはない」人が多くなっている。このことから、「現在介護をしている」「以前介護をしていた」と答えた人(介護経験者)と、「介護をしたことがない」と答えた人(介護未経験者)とでは、理解度に大きく差が出ていることが見て取れる。また、今現在介護に直面している人ほど制度には詳しいということも分かる。

第4章 仕事と介護の関係

1. 家族の介護が必要になった場合の働き方

家族の介護が必要になったときの働き方を聞くと、男女ともに「短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける」と答えた者が最も多かった。同回答を年齢別に見ていくと、男性は50代が42.5%、次いで60代が36.1%と多く、女性は40代が56.9%、次いで50代が53.1%となっている。

介護休業制度を利用するという回答の次に多い回答は男女で異なっている。男性は「施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰」で30.2%、女性は「仕事を辞め、介護に専念する」で16.1%である。男性で「仕事を辞め、介護に専念する」と答えているのは主に60代70代で、家族の介護が必要になったときも、仕事を辞めるという選択肢が多くないことがわかる。一方女性は40代に「介護を辞め、仕事に専念する」と答える者が13.7%存在し、男性に比べて介護による離職を考えていることがわかる。

表 4-1-1 「年齢」と「家族の介護が必要になったときの働き方」とのクロス (*男性 \leq .001 女性 \leq .001)

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	仕事を辞め、介護に専念する	0 0.0%	3 7.5%	7 9.7%	14 23.3%	24 12.1%
	施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰	6 22.2%	11 27.5%	12 16.7%	11 18.3%	40 20.1%
	短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける	8 29.6%	17 42.5%	26 36.1%	9 15.0%	60 30.2%
	仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける	12 44.4%	7 17.5%	2 2.8%	4 6.7%	25 12.6%
	その他	1 3.7%	2 5.0%	18 25.0%	7 11.7%	28 14.1%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	7 9.7%	15 25.0%	22 11.1%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
女性	仕事を辞め、介護に専念する	7 13.7%	6 7.4%	23 24.2%	10 17.2%	46 16.1%
	施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰	5 9.8%	9 11.1%	14 14.7%	8 13.8%	36 12.6%
	短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける	29 56.9%	43 53.1%	29 30.5%	13 22.4%	114 40.0%
	仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける	6 11.8%	10 12.3%	4 4.2%	1 1.7%	21 7.4%
	その他	4 7.8%	8 9.9%	8 8.4%	8 13.8%	28 9.8%
	不明・無回答	0 0.0%	5 6.2%	17 17.9%	18 31.0%	40 14.0%
	合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%

次に就業形態との関係を見ていこう。「短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける」という回答は全就業形態で高い数字を示している。

「仕事を辞め、介護に専念する」という回答に注目すると、「常勤（正社員・正職員）」以外の就業者による回答が多いことがわかる。当然のことではあるが、介護のために仕事を辞めるという選択が可能なのは常勤（正社員・正職員）に比べて責任が少ない者に限られるからであろう。

表 4-1-2 「就業形態」と「家族の介護が必要になったときの働き方」とのクロス(*男性≦.001 女性≦.01)

		就業形態						合計
		常勤 (正社員・ 正職員)	派遣・契 約・嘱託	パート・ア ルバイト	自営業・ 家族従業員	内職・在宅 勤務	その他	
男性	仕事を辞め、介護に専念する	5 7.0%	1 14.3%	3 30.0%	6 16.2%		9 12.2%	24 12.1%
	施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰	18 25.4%	0 0.0%	2 20.0%	5 13.5%		15 20.3%	40 20.1%
	短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける	25 35.2%	3 42.9%	3 30.0%	11 29.7%		18 24.3%	60 30.2%
	仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける	20 28.2%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%		4 5.4%	25 12.6%
	その他	3 4.2%	3 42.9%	1 10.0%	8 21.6%		13 17.6%	28 14.1%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 18.9%		15 20.3%	22 11.1%
	合計	71 100.0%	7 100.0%	10 100.0%	37 100.0%		74 100.0%	199 100.0%
女性	仕事を辞め、介護に専念する	5 12.8%	4 25.0%	13 20.6%	5 14.3%	0 0.0%	19 14.5%	46 16.1%
	施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰	3 7.7%	3 18.8%	6 9.5%	4 11.4%	0 0.0%	20 15.3%	36 12.6%
	短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける	17 43.6%	4 25.0%	31 49.2%	14 40.0%	1 100.0%	47 35.9%	114 40.0%
	仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける	9 23.1%	2 12.5%	5 7.9%	1 2.9%	0 0.0%	4 3.1%	21 7.4%
	その他	2 5.1%	3 18.8%	6 9.5%	6 17.1%	0 0.0%	11 8.4%	28 9.8%
	不明・無回答	3 7.7%	0 0.0%	2 3.2%	5 14.3%	0 0.0%	30 22.9%	40 14.0%
	合計	39 100.0%	16 100.0%	63 100.0%	35 100.0%	1 100.0%	131 100.0%	285 100.0%

2. 介護支援制度の認知度

続いて「年齢」と「勤務先の介護支援制度の認知度」クロスさせた。以下では現在働いていない者を除くこととする。

男性で「制度があることは知っているが、内容は知らない」が17.1%、女性では「制度があるかどうか知らない」が18.6%と最も多かった。また「制度があるかどうか知らない」と「制度はない」を足すと、男性は23.1%なのに対して、女性は31.9%と男性に比べて若干高い数字を示している。

40代では、男女ともに「制度があるかどうか分からない」と回答した者が多かった。次いで多い回答が男性は「制度があることは知っているが、内容はわからない」で29.6%、女性は「制度はない」がある。

50代をみると、男性は「制度があることは知っているが、内容はわからない」「制度があるかどうか知らない」が共に32.5%で多く、女性は「制度があるかどうか知らない」が23.5%、次いで「制度はない」が16.0%だった。

表 4-2-1 「年齢」と「勤務先の介護に関する支援制度についての認知度」とのクロス表

(*男性 \leq .001 女性 \leq .001)

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	制度があることを知っており、内容も大体わかる	6 22.2%	6 15.0%	2 2.8%	2 3.3%	16 8.0%
	制度があることは知っているが、内容はわからない	8 29.6%	13 32.5%	6 8.3%	7 11.7%	34 17.1%
	制度があるかどうか知らない	11 40.7%	13 32.5%	5 6.9%	0 0.0%	29 14.6%
	制度はない	2 7.4%	5 12.5%	8 11.1%	2 3.3%	17 8.5%
	勤め人ではない（自営業・無職）	0 0.0%	3 7.5%	51 70.8%	49 81.7%	103 51.8%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	制度があることを知っており、内容も大体わかる	3 5.9%	7 8.6%	3 3.2%	0 0.0%
制度があることは知っているが、内容はわからない	6 11.8%	10 12.3%	9 9.5%	5 8.6%	30 10.5%	
制度があるかどうか知らない	22 43.1%	19 23.5%	8 8.4%	4 6.9%	53 18.6%	
制度はない	7 13.7%	13 16.0%	16 16.8%	2 3.4%	38 13.3%	
勤め人ではない（自営業・無職）	13 25.5%	32 39.5%	59 62.1%	47 81.0%	151 53.0%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

次に、介護に関する支援制度の有無と就業形態についてみていきたい。表 4-2-2 は「就業形態」と「勤務先の介護に関する支援制度についての認知度」をクロスさせたものである。

これをみると制度の認知度は男女共に「常勤（正社員・正職員）」に高いことがわかる。認知度が低いのは「パート・アルバイト」の女性で、「制度があるかどうか知らない」が 47.6%、「制度はない」が 36.5% となっている。

表 4-2-2 「就業形態」と「勤務先の介護に関する支援制度についての認知度」とのクロス表

(※男性 \leq .001 女性 \leq .001)

		就業形態					合計	
		常勤 (正社員・ 正職員)	派遣・契 約・嘱託	パート・ア ルバイト	自営業・家 族従業員	内職・在宅 勤務		その他
男性	制度があることを知っており、 内容も大体わかる	12 16.9%	1 14.3%	0 0.0%	2 5.4%		1 1.4%	16 8.0%
	制度があることは知っている が、内容はわからない	22 31.0%	2 28.6%	3 30.0%	1 2.7%		6 8.1%	34 17.1%
	制度があるかどうか知らない	25 35.2%	2 28.6%	2 20.0%	0 0.0%		0 0.0%	29 14.6%
	制度はない	10 14.1%	1 14.3%	4 40.0%	2 5.4%		0 0.0%	17 8.5%
	勤め人ではない(自営業・無 職)	2 2.8%	1 14.3%	1 10.0%	32 86.5%		67 90.5%	103 51.8%
	合計	71 100.0%	7 100.0%	10 100.0%	37 100.0%		74 100.0%	199 100.0%
女性	制度があることを知っており、 内容も大体わかる	8 20.5%	3 18.8%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	13 4.6%
	制度があることは知っている が、内容はわからない	13 33.3%	4 25.0%	6 9.5%	5 14.3%	0 0.0%	2 1.5%	30 10.5%
	制度があるかどうか知らない	12 30.8%	4 25.0%	30 47.6%	1 2.9%	0 0.0%	6 4.6%	53 18.6%
	制度はない	5 12.8%	5 31.3%	23 36.5%	4 11.4%	1 100.0%	0 0.0%	38 13.3%
	勤め人ではない(自営業・無 職)	1 2.6%	0 0.0%	3 4.8%	25 71.4%	0 0.0%	122 93.1%	151 53.0%
	合計	39 100.0%	16 100.0%	63 100.0%	35 100.0%	1 100.0%	131 100.0%	285 100.0%

3. 介護経験の有無と働き方

最後に、介護経験の有無が介護をすることになったとき働き方の希望に影響を与えるかどうかを見ていきたい。

「短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける」という回答は介護経験の有無にかかわらず最も高い数字を示している。

次に多い回答は介護経験によって差がある。「施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰」は「現在介護をしている」と答えた者のうち22.8だが、「以前介護をしていた」「介護をしたことはない」と答えた者は20%を切っている。「以前介護をしていた」と答えた19.3%、「介護をしたことはない」と答えた13.8%が「仕事を辞め、介護に専念する」と答えている。また介護経験がある者は「仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける」という回答が10%を切っているのに対し、介護経験が無い者は12.1%と介護経験の有無によって差が出ている。

表 4-3-1「介護経験の有無」と「家族を介護することになった場合の働き方」のクロス表(* \leq .05)

	介護経験の有無			合計
	現在介護をしている	以前介護をしていた	介護をしたことはない	
仕事を辞め、介護に専念する	3 5.3%	28 19.3%	39 13.8%	70 14.5%
施設に入所できるまで介護休業制度を利用し、その後に仕事に復帰	13 22.8%	25 17.2%	38 13.5%	76 15.7%
短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける	25 43.9%	47 32.4%	102 36.2%	174 36.0%
仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける	5 8.8%	7 4.8%	34 12.1%	46 9.5%
その他	8 14.0%	17 11.7%	31 11.0%	56 11.6%
不明・無回答	3 5.3%	21 14.5%	38 13.5%	62 12.8%
合計	57 100.0%	145 100.0%	282 100.0%	484 100.0%

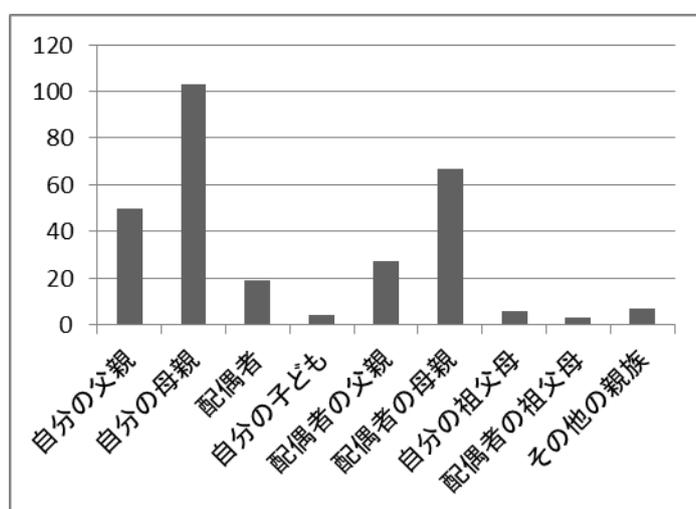
第5章 回答者の介護の実態

本章では、回答者の介護状況について考察を進めていく。本章においては「現在、介護をしている」もしくは「これまでに介護をしたことはあるが、現在はしていない」と回答した者が対象である。

1. 介護対象

まず、介護対象者の傾向については、集計の結果、介護対象は「自分の母親」(36.0%)、「配偶者の母親」(23.4%)、「自分の父親」(17.5%)の順に多いことが判明した(図5-1-1)。自分、配偶者それぞれの両親の他にも、それぞれごく少数ではあるが、「自分の祖父母」、「配偶者の祖父母」、「その他の親族」を介護しているケースも見受けられた。

図5-1-1:回答者が介護をしている/していた対象(複数回答)



また、性別・年齢別にみた場合(表5-1-2)、男性は「自身の両親を介護する」(父親:30.2%、母親:63.5%)に偏っている一方で、女性は「自分の母親」が一番多い(45.3%)のは男性と共通であるものの、次点では「配偶者の母親」(36.7%)、その次に「自分の父親」(22.3%)となっている。70歳代女性においては「配偶者の母親を介護している/していた」(48.6%)という回答が最多であった。同様に、50~60歳代女性においても約3割が「配偶者の母親を介護している/していた」と回答している。一方、同年代の男性では「自分の母親」と回答したのは半数を超えているのに対し、「配偶者の母親」の回答率は2割程度にとどまっている。加えて、「配偶者の父親」は男性全体で6.3%、女性全体で16.5%と開きがある。このことから「要介護者と同性の人間が介護する」とは一概にはいえないと考えられる。

表5-1-2：「年齢」と「介護をしている／していた人」とのクロス（複数回答）

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	自分の父親	0 0.0%	3 27.3%	10 35.7%	6 27.3%	19 30.2%
	自分の母親	0 0.0%	6 54.5%	22 78.6%	12 54.5%	40 63.5%
	配偶者	0 0.0%	1 9.1%	2 7.1%	3 13.6%	6 9.5%
	自分の子ども	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%
	配偶者の父親	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	2 9.1%	4 6.3%
	配偶者の母親	1 50.0%	3 27.3%	4 14.3%	8 36.4%	16 25.4%
	自分の祖父母	1 50.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 4.5%	3 4.8%
	配偶者の祖父母	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他の親族	0 0.0%	0 0.0%	1 3.6%	2 9.1%	3 4.8%
	合計	2 100.0%	11 100.0%	28 100.0%	22 100.0%	63 100.0%
女性	自分の父親	4 44.4%	8 19.5%	14 25.9%	5 14.3%	31 22.3%
	自分の母親	2 22.2%	20 48.8%	28 51.9%	13 37.1%	63 45.3%
	配偶者	1 11.1%	0 0.0%	6 11.1%	6 17.1%	13 9.4%
	自分の子ども	0 0.0%	2 4.9%	0 0.0%	1 2.9%	3 2.2%
	配偶者の父親	1 11.1%	8 19.5%	6 11.1%	8 22.9%	23 16.5%
	配偶者の母親	0 0.0%	14 34.1%	20 37.0%	17 48.6%	51 36.7%
	自分の祖父母	2 22.2%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	3 2.2%
	配偶者の祖父母	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	2 5.7%	3 2.2%
	その他の親族	1 11.1%	1 2.4%	1 1.9%	1 2.9%	4 2.9%
	合計	9 100.0%	41 100.0%	54 100.0%	35 100.0%	139 100.0%

パーセンテージと合計は設問に対する応答者数を基に計算されている。

2. 要介護要因および要介護認定の分布

『平成25年 国民生活基礎調査の概況』（厚生労働省）によると全国的にみると介護が必要になった要因の上位3位は「脳血管疾患（脳卒中）」（18.5%）、「認知症」（15.8%）、「高齢による衰弱」（13.4%）であった（表5-2-1）。また、要支援者における主原因は「関節疾患」や「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」であるのに対し要介護者では「脳血管疾患（脳卒中）」、「認知症」が主原因として挙げられている。

表5-2-1：要介護度別にみた介護が必要となった主原因

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	脳血管疾患（脳卒中）	18.5	認知症	15.8	高齢による衰弱	13.4
要支援者	関節疾患	20.7	高齢による衰弱	15.4	骨折・転倒	14.6
要支援1	関節疾患	23.5	高齢による衰弱	17.3	骨折・転倒	11.3
要支援2	関節疾患	18.2	骨折・転倒	17.6	脳血管疾患（脳卒中）	14.1
要介護者	脳血管疾患（脳卒中）	21.7	認知症	21.4	高齢による衰弱	12.6
要介護1	認知症	22.6	高齢による衰弱	16.1	脳血管疾患（脳卒中）	13.9
要介護2	認知症	19.2	脳血管疾患（脳卒中）	18.9	高齢による衰弱	13.8
要介護3	認知症	24.8	脳血管疾患（脳卒中）	23.5	高齢による衰弱	10.2
要介護4	脳血管疾患（脳卒中）	30.9	認知症	17.3	骨折・転倒	14.0
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	34.5	認知症	23.7	高齢による衰弱	8.7
資料：厚生労働省						（単位%）

本調査での要介護度の分布、及び要介護原因の割合は以下の図5-2-2、表5-2-3のような結果となった。要支援1から認定度が上がるにつれて増加する傾向にあることがわかる。要介護4で一時減少したものの要介護5が最多となった。また、介護対象者が要介護状態になった原因としては「複合的要因」が最多（25%）であったが、それを除くと「認知症」（20%）、「高齢による衰弱」（19%）、「脳血管疾患（脳卒中、脳梗塞、脳出血）」（15%）の割合が高く、全国調査の総数における介護原因の割合、及び要介護者における介護原因とほぼ同じ内訳となった。今回の調査では「複合的要因」の内訳までは集計していないものの、これら個別の3つの要因が関係していると考えられる。

図 5-2-2:介護対象者の要介護度の割合

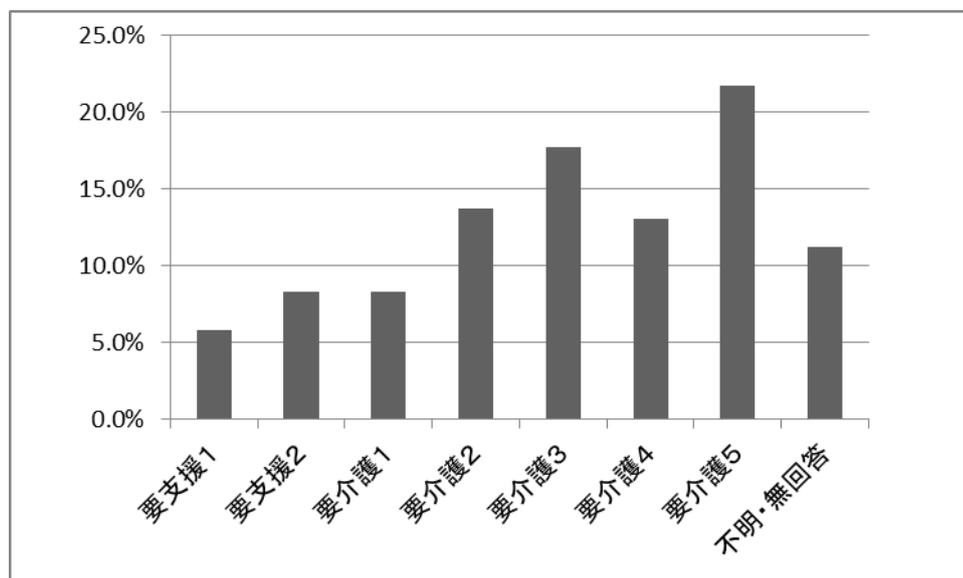


表5-2-3：要介護になった原因の割合

	度数	割合
脳血管疾患(脳卒中、脳梗塞、脳出血)	31	15%
認知症	40	20%
高齢による衰弱	38	19%
関節疾患(リウマチ等)	6	3%
骨折・転倒	20	10%
心疾患(心臓病)	7	3%
パーキンソン病	2	1%
糖尿病	6	3%
呼吸器疾患(肺気腫、肺炎)	1	0%
複合的要因・その他	50	25%
無回答	1	0%
合計	202	100%

3. 介護対象者が要介護状態になると想定していたか

では、以上のことをふまえて調査対象者が「介護要因が発生する以前から、(介護対象者が) 要介護状態になると想定していたか」という設問の回答を見ていく。

表 5-3-1 によれば男女共に「ある程度、想定していた」との回答が最多であった。しかし、「想定していなかった」が 2 番目に多い回答であることから、全体の傾向としては「あるかもしれない」程度の認識であると考えられる。また、50 代男性のうちでは 9.1%のみ「想定していなかった」と回答しているのに対し、50 歳代女性の 51.2%が「想定していなかった」と回答しており同年代の男女においてもかなりの差が出ていることがわかる。

表5-3-1：「年齢」と「要介護状態になる前から介護が必要になると想定していたか」とのクロス

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	かなりの程度、想定していた	0 0.0	3 27.3	5 17.9	4 18.2	12 19.0
	ある程度、想定していた	2 100.0	7 63.6	15 53.6	9 40.9	33 52.4
	想定していなかった	0 0.0	1 9.1	7 25.0	8 36.4	16 25.4
	不明・無回答	0 0.0	0 0.0	1 3.6	1 4.5	2 3.2
	合計	2 100.0	11 100.0	28 100.0	22 100.0	63 100.0
女性	かなりの程度、想定していた	0 0.0	8 19.5	7 13.0	3 8.6	18 12.9
	ある程度、想定していた	6 66.7	12 29.3	29 53.7	18 51.4	65 46.8
	想定していなかった	3 33.3	21 51.2	18 33.3	14 40.0	56 40.3
	不明・無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	9 100.0	41 100.0	54 100.0	35 100.0	139 100.0

また、介護原因によって想定の割合が変化するかについては、「脳血管疾患（脳卒中、脳梗塞、脳出血）」や「心疾患（心臓病）」では「想定していなかった」と答えた方の割合が高い傾向にあることがわかる（表 5-3-2）。これらの介護原因は発症のタイミングが想定しにくいことも考えられる。

表 5-3-2:「要介護になった原因」と「要介護状態になる前から要介護状態を想定していたか」のクロス***

	脳血管疾患 (脳卒中、脳梗塞、 脳出血)	認知症	高齢による 衰弱	関節疾患 (リウマチ等)	骨折・転倒	心疾患 (心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	呼吸器疾患 (肺気腫、肺炎)	複合的要因・その他	不明・無回答	合計
かなりの程度、想定していた	0 0.0%	5 12.5%	6 15.8%	3 50.0%	4 20.0%	1 14.3%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	10 20.0%	0 0.0%	30 14.9%
ある程度、想定していた	8 25.8%	19 47.5%	23 60.5%	2 33.3%	13 65.0%	2 28.6%	0 0.0%	4 66.7%	0 0.0%	27 54.0%	0 0.0%	98 48.5%
想定していなかった	23 74.2%	16 40.0%	9 23.7%	1 16.7%	3 15.0%	4 57.1%	2 100.0%	1 16.7%	1 100.0%	12 24.0%	0 0.0%	72 35.6%
不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	1 100.0%	2 1.0%
合計	31 100.0%	40 100.0%	38 100.0%	6 100.0%	20 100.0%	7 100.0%	2 100.0%	6 100.0%	1 100.0%	50 100.0%	1 100.0%	202 100.0%

表 5-3-3 は「要介護対象者」と「介護原因が発生する以前から要介護状態を想定していたか」を性別にクロス集計した結果である。そもそも回答数の少ない項目（「配偶者」、「自分の子ども」など）において「想定していなかった」との回答率が高いことは予想しやすいものの、女性において「自分の父親」や「自分の母親」の介護に対して「想定していなかった」との回答が 4 割を超えていることは予想外であった。その一方、「配偶者の父親」または「配偶者の母親」の介護における「想定していなかった」の回答率が 3 割程度であることを考えると、女性は自分の両親を介護するよりも配偶者の両親を介護することを想定しているという傾向にあることが考えられる。

表 5-3-3:「要介護対象者」と「要介護状態になる前から要介護状態を想定していたか」とのクロス（複数回答）

		自分の父親	自分の母親	配偶者	自分の子ども	配偶者の父親	配偶者の母親	自分の祖父母	配偶者の祖父母	その他の親族	合計
男性	かなりの程度、想定していた	5 26.3%	10 25.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 31.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 19.0%
	ある程度、想定していた	11 57.9%	21 52.5%	1 16.7%	1 100.0%	2 50.0%	6 37.5%	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	33 52.4%
	想定していなかった	2 10.5%	8 20.0%	2 33.3%	0 0.0%	2 50.0%	5 31.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	16 25.4%
	不明・無回答	1 5.3%	1 2.5%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.2%
	合計	19 100.0%	40 100.0%	6 100.0%	1 100.0%	4 100.0%	16 100.0%	3 100.0%	0 100.0%	3 100.0%	63 100.0%
女性	かなりの程度、想定していた	4 12.9%	7 11.1%	0 0.0%	1 33.3%	5 21.7%	8 15.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	18 12.9%
	ある程度、想定していた	14 45.2%	25 39.7%	6 46.2%	0 0.0%	10 43.5%	27 52.9%	2 66.7%	2 66.7%	2 50.0%	65 46.8%
	想定していなかった	13 41.9%	31 49.2%	7 53.8%	2 66.7%	8 34.8%	16 31.4%	1 33.3%	0 0.0%	2 50.0%	56 40.3%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	合計	31 100.0%	63 100.0%	13 100.0%	3 100.0%	23 100.0%	3 100.0%	3 100.0%	4 100.0%	4 100.0%	139 100.0%

第6章 介護期間・平均介護時間と負担感、介護の場所

1.介護期間

今回の調査では回答者に現在介護をしているか、現在介護していない人には以前介護をしていたかを尋ね、介護経験者には介護をしている、もしくは介護をしていた期間を尋ねた。表6-1-1は回答者の「年齢」と「介護期間」を性別にクロス集計した結果である。男性、女性ともに「1年-3年」が最も多く、男性では31.7%、女性では27.3%であった。しかし、介護の期間は度数の少ない40-49層の男性を除いて全体に分散しており、介護期間が「5年-7年」の人は男性11.1%、女性12.2%、「7年-10年」の人は男性14.3%、女性9.4%、「10年以上」の人は男性9.5%、女性11.5%と、介護期間が5年以上の人もそれぞれの層で1割前後おり、このことから介護期間が長期化する例も決して少なくないことが分かる。

表6-1-1 「年齢」と「介護期間」のクロス

介護期間		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	1年未満	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	3 13.6%	6 9.5%
	1年-3年	1 50.0%	5 45.5%	9 32.1%	5 22.7%	20 31.7%
	3年-5年	0 0.0%	4 36.4%	5 17.9%	6 27.3%	15 23.8%
	5年-7年	0 0.0%	0 0.0%	5 17.9%	2 9.1%	7 11.1%
	7年-10年	1 50.0%	1 9.1%	2 7.1%	5 22.7%	9 14.3%
	10年以上	0 0.0%	1 9.1%	4 14.3%	1 4.5%	6 9.5%
	合計	2 100.0%	11 100.0%	28 100.0%	22 100.0%	63 100.0%
	女性	1年未満	2 22.2%	10 24.4%	13 24.1%	7 20.0%
1年-3年	4 44.4%	9 22.0%	16 29.6%	9 25.7%	38 27.3%	
3年-5年	0 0.0%	6 14.6%	10 18.5%	6 17.1%	22 15.8%	
5年-7年	1 11.1%	3 7.3%	6 11.1%	7 20.0%	17 12.2%	
7年-10年	0 0.0%	8 19.5%	4 7.4%	1 2.9%	13 9.4%	
10年以上	2 22.2%	5 12.2%	4 7.4%	5 14.3%	16 11.5%	
不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	1 0.7%	
合計	9 100.0%	41 100.0%	54 100.0%	35 100.0%	139 100.0%	

ところで、表 6-1-1 は現在介護をしている人と以前介護をしていた人の両方を含めた結果である。では、現在と以前とで介護の期間に差はあるのであろうか。そのことを確認するために作成したのが表 6-1-2 と表 6-1-3 である。

表 6-1-2 は、回答者の「介護期間」と性別を「いつ介護をしたか」にクロス集計したものである。まず現在介護をしている人について見てみると、最も多い回答は「1年-3年」であり 29.8%だが、男性で最も多いのは「3年-5年」の 31.3%、次に多いのは「5年-7年」「10年以上」の 18.8%であった。また、女性で最も多いのは「1年-3年」の 36.6%で、次に多いは「3年-5年」「10年以上」の 17.1%であった。次に、以前介護をしていた人について見てみると、全体で最も多いのは「1年-3年」の 28.3%であり、男女別に見ると、男性で最多は「1年-3年」の 38.3%、次に多いのは「3年-5年」の 21.3%、女性で最多は「1年未満」の 28.6%、次に多い回答は「1年-3年」の 23.5%であった。ここで表 6-1-2 全体を見てみると、回答者は以前介護をしていた人の方が多い。また、現在か以前かに関わらず、女性の方が男性より介護経験のある人が多く、一方で女性は男性より介護期間が短い傾向がみられる。さらに、現在介護をしている人と以前介護をしていた人を見比べると、どちらも 5年以上介護している人が 3割以上いることは変わらないものの、現在介護をしている人の方が介護期間は長い傾向にある。

表6-1-2 「性別」と「介護期間」と「いつ介護をしたか」のクロス

介護期間		男性	女性	合計
現在介護をしている	1年未満	2 12.5%	4 9.8%	6 10.5%
	1年-3年	2 12.5%	15 36.6%	17 29.8%
	3年-5年	5 31.3%	7 17.1%	12 21.1%
	5年-7年	3 18.8%	3 7.3%	6 10.5%
	7年-10年	1 6.3%	5 12.2%	6 10.5%
	10年以上	3 18.8%	7 17.1%	10 17.5%
	合計	16 100.0%	41 100.0%	57 100.0%
以前介護をしていた	1年未満	4 8.5%	28 28.6%	32 22.1%
	1年-3年	18 38.3%	23 23.5%	41 28.3%
	3年-5年	10 21.3%	15 15.3%	25 17.2%
	5年-7年	4 8.5%	14 14.3%	18 12.4%
	7年-10年	8 17.0%	8 8.2%	16 11.0%
	10年以上	3 6.4%	9 9.2%	12 8.3%
	不明・無回答	0 0.0%	1 1.0%	1 0.7%
	合計	47 100.0%	98 100.0%	145 100.0%

続いて表 6-1-3 である。表 6-1-3 は回答者の「年齢」と「介護期間」を「いつ介護をしたか」にクロス集計したものである。現在介護をしている人と以前介護をしていた人を年齢層別に見比べると、70代では依然介護をしていた人が現在介護をしている人よりも圧倒的に多かった。40-49層と70-79層では度数の少ない部分があるため傾向の違いがつかめないが、50-59層では以前介護していた人の回答の最多が「1年-3年」の30.0%、次に多いのが「1年未満」の26.7%なのに対し、現在介護している人の50-59層の回答の最多は「3年-5年」の31.8%で次に多いのは「1年-3年」と「7年-10年」の22.7%、60-69層では以前介護をしていた人の回答の最多が「1年-3年」の28.8%で次に多い回答が「1年未満」の22.0%なのに対し、現在介護している人の回答の最多は「1年-3年」で34.8%、次に多い回答は「3年-5年」の21.7%といったように、50-59層と60-69層では表 6-1-2 でも見たように以前介護をしていた人より現在介護をしている人の方が介護期間は長くなっている傾向が見られた。このことは医療の進歩が一因としてあるのではないかと考える。

表6-1-3 「年齢」と「介護期間」と「いつ介護をしたか」のクロス

介護期間		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
現在介護 をしている	1年未満	1 20.0%	2 9.1%	3 13.0%	0 0.0%	6 10.5%
	1年-3年	1 20.0%	5 22.7%	8 34.8%	3 42.9%	17 29.8%
	3年-5年	0 0.0%	7 31.8%	5 21.7%	0 0.0%	12 21.1%
	5年-7年	1 20.0%	1 4.5%	4 17.4%	0 0.0%	6 10.5%
	7年-10年	0 0.0%	5 22.7%	0 0.0%	1 14.3%	6 10.5%
	10年以上	2 40.0%	2 9.1%	3 13.0%	3 42.9%	10 17.5%
	合計	5 100.0%	22 100.0%	23 100.0%	7 100.0%	57 100.0%
以前介護 をしていた	1年未満	1 16.7%	8 26.7%	13 22.0%	10 20.0%	32 22.1%
	1年-3年	4 66.7%	9 30.0%	17 28.8%	11 22.0%	41 28.3%
	3年-5年	0 0.0%	3 10.0%	10 16.9%	12 24.0%	25 17.2%
	5年-7年	0 0.0%	2 6.7%	7 11.9%	9 18.0%	18 12.4%
	7年-10年	1 16.7%	4 13.3%	6 10.2%	5 10.0%	16 11.0%
	10年以上	0 0.0%	4 13.3%	5 8.5%	3 6.0%	12 8.3%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	1 0.7%
合計	6 100.0%	30 100.0%	59 100.0%	50 100.0%	145 100.0%	

2. 一日の平均介護時間

これまでは回答者中の介護経験者の介護期間がどのくらいの年月かを見てきたが、ここからは一日のうち平均何時間介護をやってきたかについて見る。介護期間と同様に、今回の調査では現在介護をしている人と以前介護をしていた人の両方に1日の平均介護時間について尋ねた。下の表6-2-1は回答者の「年齢」と「1日の平均介護時間」を性別にクロス集計した結果である。男性、女性ともに回答の最多は「4時間以内」で男性が57.1%、女性が47.5%、次に多いのは「4-8時間」で男性が17.5%、女性が23.7%であった。年齢層別に見ても、回答の最多はどの年齢層も「4時間以内」であった。しかしながら、介護期間の表と同様にこの表においても回答は4時間以上の介護期間にも分散しており、「8-12時間」では男性11.1%、女性10.1%で男女とも1割前後、「12時間以上」でも男性14.3%、女性16.5%で男女とも1割以上である。介護期間に限らず、一日の介護時間においても長くなる事例は少なくないことが分かる。

1日の平均介護時間		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	4時間以内	2 100.0%	8 72.7%	16 57.1%	10 45.5%	36 57.1%
	4-8時間	0 0.0%	0 0.0%	3 10.7%	8 36.4%	11 17.5%
	8-12時間	0 0.0%	2 18.2%	2 7.1%	3 13.6%	7 11.1%
	12時間以上	0 0.0%	1 9.1%	7 25.0%	1 4.5%	9 14.3%
	合計	2 100.0%	11 100.0%	28 100.0%	22 100.0%	63 100.0%
女性	4時間以内	3 33.3%	22 53.7%	26 48.1%	15 42.9%	66 47.5%
	4-8時間	1 11.1%	10 24.4%	15 27.8%	7 20.0%	33 23.7%
	8-12時間	2 22.2%	4 9.8%	4 7.4%	4 11.4%	14 10.1%
	12時間以上	3 33.3%	4 9.8%	7 13.0%	9 25.7%	23 16.5%
	不明・無回答	0 0.0%	1 2.4%	2 3.7%	0 0.0%	3 2.2%
	合計	9 100.0%	41 100.0%	54 100.0%	35 100.0%	139 100.0%

介護期間の場合と同様、違いがないか確認するために現在介護をしている人と以前介護をしていた人を分けた集計も行った。表 6-2-2 はその集計の表であり、回答者の「1日の平均介護時間」と性別を「いつ介護をしたか」にクロス集計した結果である。介護しているのが現在か以前かを分けた場合でも、表 6-2-1 と同様最多の回答は「4時間以内」であり、また度数の少ない現在介護をしている男性を除いて次に多い回答は「4-8時間」であった。一方、一日に8時間以上介護する人が一定数いることも表 6-2-1 と同じではあるが、これから個々の事情で変動する可能性はあるものの、よく見ると以前介護している人に比べその割合が減っていることが分かる。

表6-2-2 「性別」と「1日の平均介護時間」と「いつ介護をしたか」のクロス

1日の平均介護時間		男性	女性	合計
現在介護をしている	4時間以内	12 75.0%	21 51.2%	33 57.9%
	4-8時間	1 6.3%	11 26.8%	12 21.1%
	8-12時間	1 6.3%	5 12.2%	6 10.5%
	12時間以上	2 12.5%	3 7.3%	5 8.8%
	不明・無回答	0 0.0%	1 2.4%	1 1.8%
	合計	16 100.0%	41 100.0%	57 100.0%
以前介護をしていた	4時間以内	24 51.1%	45 45.9%	69 47.6%
	4-8時間	10 21.3%	22 22.4%	32 22.1%
	8-12時間	6 12.8%	9 9.2%	15 10.3%
	12時間以上	7 14.9%	20 20.4%	27 18.6%
	不明・無回答	0 0.0%	2 2.0%	2 1.4%
	合計	47 100.0%	98 100.0%	145 100.0%

次の表 6-2-3 も現在介護をしている人と以前介護をしていた人を分けた集計であり、「1日の平均介護時間」と「年齢」を「いつ介護をしたか」にクロス集計した結果である。年齢層に見ても表 6-2-2 と同様の傾向が見られ、どの年齢層でも「4時間以内」が多く、しかしながら「8-12時間」と「12時間以上」と答える人も少なくない。そして、現在介護している人の「8-12時間」「12時間以上」と答えている割合が以前介護していた人より減っていることも表 6-2-2 と同じである。

表6-2-3 「年齢」と「1日の平均介護時間」と「いつ介護をしていたか」のクロス

1日の平均介護時間		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
現在介護をしている	4時間以内	2 40.0%	14 63.6%	14 60.9%	3 42.9%	33 57.9%
	4-8時間	1 20.0%	6 27.3%	4 17.4%	1 14.3%	12 21.1%
	8-12時間	1 20.0%	2 9.1%	1 4.3%	2 28.6%	6 10.5%
	12時間以上	1 20.0%	0 0.0%	3 13.0%	1 14.3%	5 8.8%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	1 1.8%
	合計	5 100.0%	22 100.0%	23 100.0%	7 100.0%	57 100.0%
以前介護をしていた	4時間以内	3 50.0%	16 53.3%	28 47.5%	22 44.0%	69 47.6%
	4-8時間	0 0.0%	4 13.3%	14 23.7%	14 28.0%	32 22.1%
	8-12時間	1 16.7%	4 13.3%	5 8.5%	5 10.0%	15 10.3%
	12時間以上	2 33.3%	5 16.7%	11 18.6%	9 18.0%	27 18.6%
	不明・無回答	0 0.0%	1 3.3%	1 1.7%	0 0.0%	2 1.4%
	合計	6 100.0%	30 100.0%	59 100.0%	50 100.0%	145 100.0%

3. 介護者の精神的・肉体的・経済的負担感

さて、介護にあたる年月や1日の平均介護時間について見てきたが、これだけの時間介護にあたるのと同時に、介護者にのしかかるのが精神的、肉体的、経済的な各負担である。回答者の中の介護経験者は、どれだけそれぞれの負担を感じていたのだろうか。

まず、介護経験者の精神的負担感について見ていく。表6-3-1は回答者の「年齢」と「精神的負担感」を性別にクロス集計した結果である。表を見ると、男性では「大きい」が最多で38.1%、次いで多いのが「非常に大きい」の36.5%であった。また、女性では「非常に大きい」が最多の42.4%、次いで「大きい」が31.7%を占めていた。年齢層別に見ても各年齢層で最多は「非常に大きい」か「大きい」のいずれかであり、性別や年齢に関わりなく介護をするにあたっては相当の精神的負担を感じる事が分かる。

表6-3-1「年齢」と「精神的負担感」のクロス 女*

精神的負担感		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	非常に大きい	0	5	9	9	23
		0.0%	45.5%	32.1%	40.9%	36.5%
	大きい	2	2	10	10	24
		100.0%	18.2%	35.7%	45.5%	38.1%
	中程度	0	4	8	2	14
		0.0%	36.4%	28.6%	9.1%	22.2%
あまり大きくない	0	0	1	1	2	
	0.0%	0.0%	3.6%	4.5%	3.2%	
合計		2	11	28	22	63
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	非常に大きい	2	28	17	12	59
		22.2%	68.3%	31.5%	34.3%	42.4%
	大きい	4	8	21	11	44
		44.4%	19.5%	38.9%	31.4%	31.7%
	中程度	2	3	12	10	27
		22.2%	7.3%	22.2%	28.6%	19.4%
あまり大きくない	0	2	3	1	6	
	0.0%	4.9%	5.6%	2.9%	4.3%	
ほとんどない	1	0	1	1	3	
	11.1%	0.0%	1.9%	2.9%	2.2%	
合計		9	41	54	35	139
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

また、要介護になった要因によって、精神的負担感に差があるかどうかを確かめようとしたものが表6-3-2である。表6-3-2は回答者の「介護の対象者が要介護になった要因」と「精神的負担感」をクロス集計したものである。要介護になった要因には母数の少ないものもあるので単純に差があるかどうかは比べられないが、「脳血管疾患」や「認知症」、「骨折・転倒」、「心疾患」、「複合的要因・その他」は精神的負担感が大きい傾向があった。一方、「高齢による衰弱」は「中程度」が最も多かった。

表6-3-2 「精神的負担感」と「介護の対象者が要介護になった原因」のクロス

精神的負担感	介護の対象者が要介護になった原因											合計
	脳血管疾患 (脳卒中、脳梗塞、脳出血)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患 (リウマチ等)	骨折・転倒	心疾患 (心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	呼吸器疾患 (肺気腫、肺炎)	複合的要因・その他	不明・無回答	
非常に大きい	12	20	8	2	8	3	1	2	1	24	1	82
	38.7%	50.0%	21.1%	33.3%	40.0%	42.9%	50.0%	33.3%	100.0%	48.0%	100.0%	40.6%
大きい	11	11	12	1	7	2	1	4	0	19	0	68
	35.5%	27.5%	31.6%	16.7%	35.0%	28.6%	50.0%	66.7%	0.0%	38.0%	0.0%	33.7%
中程度	6	7	15	3	4	1	0	0	0	5	0	41
	19.4%	17.5%	39.5%	50.0%	20.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.3%
あまり大きくない	2	1	2	0	1	1	0	0	0	1	0	8
	6.5%	2.5%	5.3%	0.0%	5.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	4.0%
ほとんどない	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	0.0%	2.5%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.5%
合計	31	40	38	6	20	7	2	6	1	50	1	202
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

次に、介護経験者の肉体的負担感について見る。表6-3-3は回答者の「年齢」と「肉体的負担感」を性別にクロス集計した結果である。最も多い回答は男性では「中程度」の31.7%、女性では「非常に大きい」の30.2%であるが、どちらにおいても中程度以上に目立った差はなく、介護においては男女ともに中程度以上の肉体的負担を感じる事が分かった。ただし年齢別にみると、40-49層では「大きい」、50代では「非常に大きい」と答える人が多いのに対して、60-69層、70-79層では「中程度」と答える人が最も多く次いで「大きい」と答える人が多い。

表6-3-3 「年齢」と「肉体的負担感」のクロス 女*

肉体的負担感		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	非常に大きい	0	5	5	7	17
		0.0%	45.5%	17.9%	31.8%	27.0%
	大きい	2	2	8	7	19
		100.0%	18.2%	28.6%	31.8%	30.2%
	中程度	0	3	10	7	20
		0.0%	27.3%	35.7%	31.8%	31.7%
あまり大きくない	0	1	5	0	6	
	0.0%	9.1%	17.9%	0.0%	9.5%	
不明・無回答	0	0	0	1	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	1.6%	
合計	2	11	28	22	63	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	非常に大きい	2	20	14	6	42
		22.2%	48.8%	25.9%	17.1%	30.2%
	大きい	4	9	16	10	39
		44.4%	22.0%	29.6%	28.6%	28.1%
	中程度	0	8	17	14	39
		0.0%	19.5%	31.5%	40.0%	28.1%
あまり大きくない	2	4	7	4	17	
	22.2%	9.8%	13.0%	11.4%	12.2%	
ほとんどない	1	0	0	1	2	
	11.1%	0.0%	0.0%	2.9%	1.4%	
合計	9	41	54	35	139	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

また、要介護となった要因ごとに見たものが次の表 6-3-4 である。表 6-3-4 は回答者の「介護の対象者が要介護になった要因」と「肉体的負担感」をクロス集計したものである。この表をみると、肉体的負担が大きい傾向にあるのは「複合的要因・その他」であり、「脳血管疾患」と「認知症」の肉体的負担感は中程度以上という結果になった。

表6-3-4 「肉体的負担感」と「介護の対象者が要介護になった原因」のクロス

肉体的負担感	介護の対象者が要介護になった原因											合計
	脳血管疾患 (脳卒中、脳梗塞、脳出血)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患 (リウマチ等)	骨折・転倒	心疾患 (心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	呼吸器疾患 (肺気腫、肺炎)	複合的要因・その他	不明・無回答	
非常に大きい	8	12	4	2	5	3	1	3	1	19	1	59
	25.8%	30.0%	10.5%	33.3%	25.0%	42.9%	50.0%	50.0%	100.0%	38.0%	100.0%	29.2%
大きい	7	12	12	0	7	1	1	3	0	15	0	58
	22.6%	30.0%	31.6%	0.0%	35.0%	14.3%	50.0%	50.0%	0.0%	30.0%	0.0%	28.7%
中程度	12	12	18	3	4	1	0	0	0	9	0	59
	38.7%	30.0%	47.4%	50.0%	20.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	18.0%	0.0%	29.2%
あまり大きくない	3	3	4	1	4	2	0	0	0	6	0	23
	9.7%	7.5%	10.5%	16.7%	20.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	11.4%
ほとんどない	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	1.0%
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	31	40	38	6	20	7	2	6	1	50	1	202
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

最後に、経済的負担感について見る。表 6-3-5 は回答者の「年齢」と「経済的負担感」を性別にクロス集計した結果である。男性では「大きい」という回答が最も多く 25.4%、女性では「中程度」という回答が最多で 25.2%であった。また年齢別に見た場合、40-49 層、50-59 層は男女とも「非常に大きい」が多いが、60-69 層では「中程度」が多い傾向にあり、70-79 層では男性が「非常に大きい」「大きい」「ほとんどない」が 27.3%で並んでおり、女性では「ほとんどない」との回答が最多で 34.3%だった。

経済的負担感		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	非常に大きい	2	3	3	6	14
		100.0%	27.3%	10.7%	27.3%	22.2%
	大きい	0	3	7	6	16
		0.0%	27.3%	25.0%	27.3%	25.4%
	中程度	0	2	7	3	12
		0.0%	18.2%	25.0%	13.6%	19.0%
	あまり大きくない	0	3	7	6	16
0.0%		27.3%	25.0%	27.3%	25.4%	
ほとんどない	0	0	4	1	5	
	0.0%	0.0%	14.3%	4.5%	7.9%	
合計		2	11	28	22	63
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	非常に大きい	3	11	9	2	25
		33.3%	26.8%	16.7%	5.7%	18.0%
	大きい	1	10	10	9	30
		11.1%	24.4%	18.5%	25.7%	21.6%
	中程度	2	9	16	8	35
		22.2%	22.0%	29.6%	22.9%	25.2%
	あまり大きくない	2	8	10	4	24
22.2%		19.5%	18.5%	11.4%	17.3%	
ほとんどない	1	3	9	12	25	
	11.1%	7.3%	16.7%	34.3%	18.0%	
合計		9	41	54	35	139
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

また、要介護となった要因ごとに見たものが次の表 6-3-6 である。表 6-3-6 は回答者の「介護の対象者が要介護になった要因」と「経済的負担感」をクロス集計したものである。これを見ると、「認知症」「複合的要因」で「大きい」との回答が多く、また「脳血管疾患」「高齢による衰弱」で「中程度」、「関節疾患」で「あまり大きくない」との回答が多かった。

表6-3-6 「経済的負担感」と「介護の対象者が要介護になった原因」のクロス

経済的負担感	介護の対象者が要介護になった原因											合計
	脳血管疾患 (脳卒中、脳梗塞、脳出血)	認知症	高齢による衰弱	関節疾患 (リウマチ等)	骨折・転倒	心疾患 (心臓病)	パーキンソン病	糖尿病	呼吸器疾患 (肺気腫、肺炎)	複合的要因・その他	不明・無回答	
非常に大きい	5	8	7	1	2	3	0	1	0	11	1	39
	16.1%	20.0%	18.4%	16.7%	10.0%	42.9%	0.0%	16.7%	0.0%	22.0%	100.0%	19.3%
大きい	7	12	5	0	4	1	0	2	1	14	0	46
	22.6%	30.0%	13.2%	0.0%	20.0%	14.3%	0.0%	33.3%	100.0%	28.0%	0.0%	22.8%
中程度	10	5	13	2	4	2	1	0	0	10	0	47
	32.3%	12.5%	34.2%	33.3%	20.0%	28.6%	50.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	23.3%
あまり大きくない	5	7	8	3	7	1	1	2	0	6	0	40
	16.1%	17.5%	21.1%	50.0%	35.0%	14.3%	50.0%	33.3%	0.0%	12.0%	0.0%	19.8%
ほとんどない	4	8	5	0	3	0	0	1	0	9	0	30
	12.9%	20.0%	13.2%	0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	18.0%	0.0%	14.9%
合計	31	40	38	6	20	7	2	6	1	50	1	202
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

さて、介護者の各負担感やそれらと要介護になった原因の関係について見てきたが、それぞれの負担感とは全く無関係という訳ではなく、表6-3-7で見られるように相関している。表6-3-7は回答者の「経済的負担感」と「肉体的負担感」を「精神的負担感」にクロス集計したものである。精神的負担感が大きくなるほど肉体的負担感や経済的負担感も共に大きくなっていることがこの表から分かる。

表6-3-7 「肉体的負担感」と「経済的負担感」と「精神的負担感」のクロス
「非常に大きい」*** 「大きい」***

精神的負担感			経済的負担感					合計
			非常に大きい	大きい	中程度	あまり大きくない	ほとんどない	
非常に大きい	肉体的負担感	非常に大きい	24 92.3%	10 52.6%	8 72.7%	3 25.0%	7 50.0%	52 63.4%
		大きい	2 7.7%	7 36.8%	0 0.0%	7 58.3%	2 14.3%	18 22.0%
		中程度	0 0.0%	1 5.3%	3 27.3%	2 16.7%	4 28.6%	10 12.2%
		あまり大きくない	0 0.0%	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	2 2.4%
	合計	26 100.0%	19 100.0%	11 100.0%	12 100.0%	14 100.0%	82 100.0%	
大きい	肉体的負担感	非常に大きい	0 0.0%	3 13.6%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%	6 8.8%
		大きい	10 90.9%	13 59.1%	7 35.0%	2 18.2%	2 50.0%	34 50.0%
		中程度	0 0.0%	5 22.7%	12 60.0%	4 36.4%	0 0.0%	21 30.9%
		あまり大きくない	1 9.1%	0 0.0%	1 5.0%	2 18.2%	2 50.0%	6 8.8%
		不明・無回答	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%
	合計	11 100.0%	22 100.0%	20 100.0%	11 100.0%	4 100.0%	68 100.0%	
中程度	肉体的負担感	非常に大きい	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 2.4%
		大きい	1 100.0%	1 20.0%	2 12.5%	2 15.4%	0 0.0%	6 14.6%
		中程度	0 0.0%	2 40.0%	13 81.3%	7 53.8%	4 66.7%	26 63.4%
		あまり大きくない	0 0.0%	2 40.0%	1 6.3%	4 30.8%	1 16.7%	8 19.5%
	合計	1 100.0%	5 100.0%	16 100.0%	13 100.0%	6 100.0%	41 100.0%	
あまり大きくない	肉体的負担感	中程度	0 0.0%			1 25.0%	1 33.3%	2 25.0%
		あまり大きくない	1 100.0%			3 75.0%	2 66.7%	6 75.0%
	合計	1 100.0%			4 100.0%	3 100.0%	8 100.0%	
ほとんどない	肉体的負担感	あまり大きくない				1 33.3%	1 33.3%	
		ほとんどない				2 66.7%	2 66.7%	
	合計					3 100.0%	3 100.0%	

4. 介護の場所

回答者のうち介護を経験している人は、要介護者と同居している人が多いのであろうか。それとも、ある程度離れたところから日々通っている人の方が多いのであろうか。そのことを確かめるため、今回の調査では要介護者のいる場所と自宅との距離を「同居」「片道30分以内の場所」「片道30分から1時間の場所」「片道1時間から2時間の場所」「片道2時間を超える場所」の中から1つ選んでいただいた。表6-4は回答者の「年齢」と「要介護者のいる場所と自宅との距離」を性別にクロス集計したものである。表を見ると、男女とも最も多いのが「同居」で男性58.7%、女性55.1%、次に多いのが「自宅から片道30分以内」で男性25.4%、女性24.6%であった。年代別に見ると、男性ではどの年齢層でも全体と同様の傾向だが、女性では40-49層、50-59層で2番目に多いのは「自宅から片道30分から1時間」であった。

要介護者のいる場所と 自宅との距離		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	同居	1 50.0%	5 45.5%	19 67.9%	12 54.5%	37 58.7%
	自宅から片道30分以内	1 50.0%	4 36.4%	6 21.4%	5 22.7%	16 25.4%
	自宅から片道30分から1時間	0 0.0%	2 18.2%	1 3.6%	3 13.6%	6 9.5%
	自宅から1時間から2時間	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.1%	2 3.2%
	自宅から片道2時間以上	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	0 0.0%	2 3.2%
	合計	2 100.0%	11 100.0%	28 100.0%	22 100.0%	63 100.0%
	女性	同居	6 66.7%	22 53.7%	27 50.9%	21 60.0%
自宅から片道30分以内	1 11.1%	7 17.1%	16 30.2%	10 28.6%	34 24.6%	
自宅から片道30分から1時間	2 22.2%	9 22.0%	4 7.5%	1 2.9%	16 11.6%	
自宅から1時間から2時間	0 0.0%	2 4.9%	5 9.4%	1 2.9%	8 5.8%	
自宅から片道2時間以上	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	
不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 1.9%	2 5.7%	3 2.2%	
合計	9 100.0%	41 100.0%	53 100.0%	35 100.0%	138 100.0%	

第7章 家族介護に関する意識

家族介護についての考え方や望ましい介護のあり方については、様々な考え方がある。それについては、介護と家族介護についての制度を考える上で考慮すべき事柄である。そこで、どのような人々が介護や家族介護についてどのように考えているかを明らかにするため、15の考え方を提示して回答者の賛否を尋ねた。以下では、性別と年齢（4区分）の2つの変数について三重クロス集計した結果を基にその傾向について簡単にまとめた。

1-1 「介護は誰の身にも起こり得る普通のことである」

年齢や性別にかかわらず、多くの回答者が「そう思う」と回答した。83.5%が「そう思う」と回答しており、「どちらかといえばそう思う」と回答した12.6%を加えると96.1%になる。また、「そう思う」と答えた人の割合が90%を超えているのは50代男性と40代女性である。

1-2 「介護は自分を犠牲にしないとできない部分がある」

全体の53.9%が「そう思う」、38.8%が「どちらかといえばそう思う」と答えており、全体として「介護は自分を犠牲にしないとできない部分がある」と考えている人が、合わせて92.7%を占めた。男性の方が女性より「そう思う」と答える人の割合が多く、「そう思わない」「どちらかというと思わない」と答えた男性は2人のみであった。対して女性は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が男性より大きかった。このことから、男性の方が強く自己犠牲の必要を感じていることがわかる。

1-3 「在宅で家族の介護をしている人は立派である」

全体の61.4%が「そう思う」、31.0%が「どちらかといえばそう思う」と答えており、合わせて92.4%を占めた。男性については、年齢が高くなるほど「そう思う」と回答する割合が高くなっており、70代では71.7%が「そう思う」と回答している。しかし、男性の回答者のうち「そう思う」と「そう思わない」と答えた割合を合わせると、40代、50代、70代はすべて90%を超えていたにも関わらず、60代だけ84.7%であった。そして60代男性のうち「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は他の年代より多くなっている。

1-4 「家族の介護は正当に評価されるべきである」

年齢や性別にかかわらず、66.5%が「そう思う」と回答し、26.9%が「どちらかというと思おう」と回答した。2つを合わせると93.5%になり、多くの人々が家族の介護は正当に評価されるべきだと考えていることがわかった。問いの内容としては全問の「在宅で家族の介護をしている人は立派である」と近いものであり、回答の傾向も似通ったものになることが予想されたが、前問より男性の40代、50代、60代、女性の40代、50代において「そう思う」と回答する割合が増加している。

1-5 「家族の介護は適切な対価を受けてよい」

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は各年代において、男女に差は見られず、年齢が若いほど家族介護は適切な対価を受けて良いという考えに肯定的な態度を示す割合が増加する傾向がある。しかし、その内訳をみると、男性より女性のほうが「そう思う」と回答する割合が高く、男性は比較的「どちらかというところ」で「そう思う」と回答する割合が高かった。

1-6 「家族の介護に家族が関わるのは当然である」

年齢や性別にかかわらず、64.3%が「そう思う」と回答し、25.6%が「どちらかというところ」と回答した。2つを合わせると89.9%になり、多くの人々が家族の介護に家族が関わるのは当然であると考えていることがわかる。70代では男女ともに「そう思う」と回答する割合は70%を超えた。一方で50代男性、40代女性についても「そう思う」と回答する割合が約75%に達していることは特徴である。

1-7 「親が自分の介護を子に期待するのは当然である」

年齢や性別にかかわらず、64.3%が「そう思う」と回答し、25.6%が「どちらかというところ」と回答した。2つを合わせると89.9%になり、多くの人々が家族の介護に家族が関わるのは当然であると考えていることがわかる。しかし、これまでの回答と比べると「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と否定的な態度を示した回答の割合も30%を超えており、「そう思う」と回答している割合が減っている。「どちらかというところ」「どちらかといえばそう思わない」に回答が偏っている。

1-8 「親の介護を子がするのは当然である」

全体として、「そう思う」と回答したのが17.4%、「どちらかというところ」が31.8%、「どちらかというところ」「そう思わない」が31.2%、「そう思わない」が16.7%という結果となった。「そう思う」と回答する割合は、年齢が高くなるほど多くなる傾向が見られた。男性の方が女性より「そう思う」と回答した割合が多く、「親の介護を子がするのは当然である」と考える男性は、同様の考えを持つ女性より強くそう考えていることがわかる。また、前問「親が自分の介護を子に期待するのは当然である」と対になる質問であったが、全体として前問より肯定的な態度を示すひとが少し減っており、親は子に介護を期待しても当然であるが、それに子が応えることは必ずしも当然のことではないと考える場合があることがわかる。

1-9 「子どもには自分の介護に関わってほしい」

男性においては「そう思う」と回答する割合は、年齢が高くなるほど多くなる傾向が見られた。女性については逆に40代が一番多く、次に50代、そして70代、60代となっている。また、男性の方が女性より「そう思う」と回答した割合が多く、「子どもには自分の介護に関わってほしい」と考える男性は、同様の考えを持つ女性より強くそう考える傾向があることがわかる。

1-10 「子どもには自分の介護で迷惑をかけたくない」

全体として、「そう思う」と回答した人が 57.9%、「どちらかというと思う」と回答した人が 26.4% を占め、多くの人子どもには自分の介護で迷惑をかけたくないと考えていることがわかる。男女で比較すると、女性より男性の方が「そう思う」と回答した割合が大きい。「そう思わない」「どちらかというと思わない」と回答する割合も両性ともに 40%を超えている。

1-11 「配偶者の介護を配偶者がするのは当然だ」

全体として、「そう思う」と回答した人が 35.3%、「どちらかというと思う」と回答した人が 37.4% を占め、半数以上の人配偶者の介護を配偶者がするのは当然だと考えていることがわかる。また、問「親の介護を子がするのは当然である」と比較すると、女性においては、50 代に「そう思う」「どちらかというと思う」と回答する割合が他の年齢より低くなっている点が特徴である。

1-12 「配偶者には自分の介護に関わってほしい」

全体として、「そう思う」と回答した人が 24.0%、「どちらかというと思う」と回答した人が 41.5% を占め、半数以上の人配偶者の介護を配偶者がするのは当然だと考えていることがわかる。男性についてのみ、年齢差が見られた。70 代についてはすこし割合が下がっているが、40 代から 60 代については年齢が高くなるほど「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した割合が大きくなった。また、男性より女性の方が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した割合が小さく、「そう思わない」「どちらかというと思わない」と回答した割合が大きかった。

1-13 「配偶者には自分の介護で迷惑をかけたくない」

全体として、「そう思う」と回答した人が 38.8%、「どちらかというと思う」と回答した人が 35.1% を占め、半数以上の人配偶者には自分の介護で迷惑をかけたくないと考えていることがわかる。年齢と男女に差は見られなかった。

1-14 「高齢期にはできるだけ自立した生活をしたい」

全体として、「そう思う」と回答した人が 72.7%、「どちらかというと思う」と回答した人が 22.9% を占め、ほとんどの人が高齢期にはできるだけ自立した生活をしたいと考えていることがわかる。年齢と男女に差は見られなかった。

1-15 「高齢期の生活では子どもの助けがあると有り難い」

全体として、全体として、「そう思う」と回答した人が 31.8%、「どちらかというと思う」と回答した人が 35.1% を占め、半分以上が子どもの助けがあると有り難いと考えていることがわかる。男女差は見られなかった。しかし、男性では、年齢が高くなるほど「そう思う」回答する人が多くなった。

表 7-1 「年齢・介護は誰の身にも起こり得る普通のことである」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	21	37	56	51	165
		77.8%	92.5%	77.8%	85.0%	82.9%
	どちらかといえばそう思う	6	3	11	4	24
		22.2%	7.5%	15.3%	6.7%	12.1%
	どちらかといえばそう思わない	0	0	1	1	2
		0.0%	0.0%	1.4%	1.7%	1.0%
	不明・無回答	0	0	4	4	8
	0.0%	0.0%	5.6%	6.7%	4.0%	
そう思わない	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	47	70	75	47	239
		92.2%	86.4%	78.9%	81.0%	83.9%
	どちらかといえばそう思う	3	9	15	10	37
		5.9%	11.1%	15.8%	17.2%	13.0%
	どちらかといえばそう思わない	0	1	1	0	2
		0.0%	1.2%	1.1%	0.0%	0.7%
	そう思わない	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
不明・無回答	1	1	4	1	7	
	2.0%	1.2%	4.2%	1.7%	2.5%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-2 「介護は自分を犠牲にしないとできない部分がある」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	14	22	38	40	114
		51.9%	55.0%	52.8%	66.7%	57.3%
	どちらかといえばそう思う	13	17	30	15	75
		48.1%	42.5%	41.7%	25.0%	37.7%
	どちらかといえばそう思わない	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.5%
	そう思わない	0	1	0	0	1
	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.5%	
不明・無回答	0	0	4	4	8	
	0.0%	0.0%	5.6%	6.7%	4.0%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	29	53	39	26	147
		56.9%	65.4%	41.1%	44.8%	51.6%
	どちらかといえばそう思う	19	24	44	26	113
		37.3%	29.6%	46.3%	44.8%	39.6%
	どちらかといえばそう思わない	1	1	5	3	10
		2.0%	1.2%	5.3%	5.2%	3.5%
	そう思わない	1	2	4	2	9
	2.0%	2.5%	4.2%	3.4%	3.2%	
不明・無回答	1	1	3	1	6	
	2.0%	1.2%	3.2%	1.7%	2.1%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-3 「年齢・在宅で家族の介護をしている人は立派である」 男*

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	12 44.4%	21 52.5%	37 51.4%	43 71.7%	113 56.8%
	どちらかといえばそう思う	14 51.9%	18 45.0%	24 33.3%	12 20.0%	68 34.2%
	どちらかといえばそう思わない	1 3.7%	1 2.5%	7 9.7%	1 1.7%	10 5.0%
	そう思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	35 68.6%	51 63.0%	63 66.3%	35 60.3%
どちらかといえばそう思う	13 25.5%	24 29.6%	27 28.4%	18 31.0%	82 28.8%	
どちらかといえばそう思わない	1 2.0%	2 2.5%	2 2.1%	3 5.2%	8 2.8%	
そう思わない	1 2.0%	3 3.7%	0 0.0%	1 1.7%	5 1.8%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	3 3.2%	1 1.7%	6 2.1%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-4 「年齢・家族の介護は正當に評価されるべきである」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	15 55.6%	24 60.0%	43 59.7%	41 68.3%	123 61.8%
	どちらかといえばそう思う	12 44.4%	16 40.0%	23 31.9%	13 21.7%	64 32.2%
	どちらかといえばそう思わない	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	1 1.7%	3 1.5%
	そう思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	1 0.5%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	42 82.4%	63 77.8%	59 62.1%	35 60.3%
どちらかといえばそう思う	7 13.7%	15 18.5%	25 26.3%	19 32.8%	66 23.2%	
どちらかといえばそう思わない	0 0.0%	1 1.2%	5 5.3%	0 0.0%	6 2.1%	
そう思わない	1 2.0%	1 1.2%	2 2.1%	3 5.2%	7 2.5%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	4 4.2%	1 1.7%	7 2.5%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-5 「年齢・家族の介護は適当な対価を受けてよい」 男* 女**

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	13 48.1%	19 47.5%	32 44.4%	33 55.0%	97 48.7%
	どちらかといえばそう思う	14 51.9%	19 47.5%	29 40.3%	15 25.0%	77 38.7%
	どちらかといえばそう思わない	0 0.0%	2 5.0%	7 9.7%	3 5.0%	12 6.0%
	そう思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.7%	4 2.0%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	5 8.3%	9 4.5%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	38 74.5%	48 59.3%	42 44.2%	19 32.8%
どちらかといえばそう思う	10 19.6%	29 35.8%	37 38.9%	28 48.3%	104 36.5%	
どちらかといえばそう思わない	1 2.0%	1 1.2%	6 6.3%	6 10.3%	14 4.9%	
そう思わない	1 2.0%	2 2.5%	5 5.3%	3 5.2%	11 3.9%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	5 5.3%	2 3.4%	9 3.2%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-6 「年齢・家族の介護に家族が関わるのは当然である」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	15 55.6%	30 75.0%	42 58.3%	43 71.7%	130 65.3%
	どちらかといえばそう思う	10 37.0%	8 20.0%	21 29.2%	10 16.7%	49 24.6%
	どちらかといえばそう思わない	2 7.4%	1 2.5%	3 4.2%	2 3.3%	8 4.0%
	そう思わない	0 0.0%	0 0.0%	2 2.8%	1 1.7%	3 1.5%
	不明・無回答	0 0.0%	1 2.5%	4 5.6%	4 6.7%	9 4.5%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	39 76.5%	45 55.6%	55 57.9%	42 72.4%
どちらかといえばそう思う	10 19.6%	23 28.4%	30 31.6%	12 20.7%	75 26.3%	
どちらかといえばそう思わない	1 2.0%	9 11.1%	6 6.3%	3 5.2%	19 6.7%	
そう思わない	0 0.0%	3 3.7%	1 1.1%	0 0.0%	4 1.4%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	3 3.2%	1 1.7%	6 2.1%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-7 「年齢・親が自分の介護を子に期待するのは当然である」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	5	11	18	20	54
		18.5%	27.5%	25.0%	33.3%	27.1%
	どちらかといえばそう思う	9	16	24	13	62
		33.3%	40.0%	33.3%	21.7%	31.2%
	どちらかといえばそう思わない	10	9	17	16	52
		37.0%	22.5%	23.6%	26.7%	26.1%
	そう思わない	3	4	9	7	23
11.1%		10.0%	12.5%	11.7%	11.6%	
不明・無回答	0	0	4	4	8	
	0.0%	0.0%	5.6%	6.7%	4.0%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	12	18	11	10	51
		23.5%	22.2%	11.6%	17.2%	17.9%
	どちらかといえばそう思う	23	31	31	28	113
		45.1%	38.3%	32.6%	48.3%	39.6%
	どちらかといえばそう思わない	13	21	34	13	81
		25.5%	25.9%	35.8%	22.4%	28.4%
	そう思わない	2	10	16	6	34
3.9%		12.3%	16.8%	10.3%	11.9%	
不明・無回答	1	1	3	1	6	
	2.0%	1.2%	3.2%	1.7%	2.1%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-8 「年齢・親の介護を子がするのは当然である」 女*

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	5	6	19	16	46
		18.5%	15.0%	26.4%	26.7%	23.1%
	どちらかといえばそう思う	8	12	18	16	54
		29.6%	30.0%	25.0%	26.7%	27.1%
	どちらかといえばそう思わない	7	14	19	15	55
		25.9%	35.0%	26.4%	25.0%	27.6%
	そう思わない	7	8	12	9	36
25.9%		20.0%	16.7%	15.0%	18.1%	
不明・無回答	0	0	4	4	8	
	0.0%	0.0%	5.6%	6.7%	4.0%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	4	10	9	15	38
		7.8%	12.3%	9.5%	25.9%	13.3%
	どちらかといえばそう思う	18	34	28	20	100
		35.3%	42.0%	29.5%	34.5%	35.1%
	どちらかといえばそう思わない	23	20	37	16	96
		45.1%	24.7%	38.9%	27.6%	33.7%
	そう思わない	5	16	18	6	45
9.8%		19.8%	18.9%	10.3%	15.8%	
不明・無回答	1	1	3	1	6	
	2.0%	1.2%	3.2%	1.7%	2.1%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-9 「年齢・子どもには自分の介護に関わってほしい」 男* 女**

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	1 3.7%	2 5.0%	10 13.9%	16 26.7%	29 14.6%
	どちらかといえばそう思う	6 22.2%	12 30.0%	23 31.9%	14 23.3%	55 27.6%
	どちらかといえばそう思わない	11 40.7%	12 30.0%	22 30.6%	16 26.7%	61 30.7%
	そう思わない	9 33.3%	14 35.0%	13 18.1%	10 16.7%	46 23.1%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	0 0.0%	2 2.5%	6 6.3%	8 13.8%
どちらかといえばそう思う	12 23.5%	20 24.7%	32 33.7%	21 36.2%	85 29.8%	
どちらかといえばそう思わない	22 43.1%	26 32.1%	36 37.9%	18 31.0%	102 35.8%	
そう思わない	16 31.4%	32 39.5%	17 17.9%	10 17.2%	75 26.3%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	4 4.2%	1 1.7%	7 2.5%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-10 「年齢・子どもには自分の介護で迷惑をかけたくない」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	15 55.6%	24 60.0%	33 45.8%	24 40.0%	96 48.2%
	どちらかといえばそう思う	10 37.0%	7 17.5%	28 38.9%	20 33.3%	65 32.7%
	どちらかといえばそう思わない	1 3.7%	3 7.5%	4 5.6%	4 6.7%	12 6.0%
	そう思わない	1 3.7%	6 15.0%	3 4.2%	8 13.3%	18 9.0%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	36 70.6%	62 76.5%	53 55.8%	33 56.9%
どちらかといえばそう思う	10 19.6%	13 16.0%	23 24.2%	17 29.3%	63 22.1%	
どちらかといえばそう思わない	1 2.0%	2 2.5%	6 6.3%	2 3.4%	11 3.9%	
そう思わない	3 5.9%	3 3.7%	9 9.5%	5 8.6%	20 7.0%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	4 4.2%	1 1.7%	7 2.5%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-11 「年齢・配偶者の介護を配偶者がするのは当然だ」 女*

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	5 18.5%	16 40.0%	29 40.3%	27 45.0%	77 38.7%
	どちらかといえばそう思う	14 51.9%	11 27.5%	24 33.3%	18 30.0%	67 33.7%
	どちらかといえばそう思わない	5 18.5%	9 22.5%	10 13.9%	5 8.3%	29 14.6%
	そう思わない	3 11.1%	4 10.0%	5 6.9%	5 8.3%	17 8.5%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	5 8.3%	9 4.5%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	10 19.6%	22 27.2%	32 33.7%	30 51.7%
どちらかといえばそう思う	21 41.2%	31 38.3%	39 41.1%	23 39.7%	114 40.0%	
どちらかといえばそう思わない	13 25.5%	17 21.0%	16 16.8%	1 1.7%	47 16.5%	
そう思わない	6 11.8%	9 11.1%	5 5.3%	3 5.2%	23 8.1%	
不明・無回答	1 2.0%	2 2.5%	3 3.2%	1 1.7%	7 2.5%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-1-12 「年齢・配偶者には自分の介護に関わってほしい」 男**

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	1 3.7%	9 22.5%	23 31.9%	25 41.7%	58 29.1%
	どちらかといえばそう思う	17 63.0%	27 67.5%	35 48.6%	19 31.7%	98 49.2%
	どちらかといえばそう思わない	6 22.2%	2 5.0%	6 8.3%	5 8.3%	19 9.5%
	そう思わない	3 11.1%	2 5.0%	4 5.6%	7 11.7%	16 8.0%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	3 5.9%	18 22.2%	26 27.4%	11 19.0%
どちらかといえばそう思う	24 47.1%	29 35.8%	30 31.6%	20 34.5%	103 36.1%	
どちらかといえばそう思わない	16 31.4%	17 21.0%	24 25.3%	12 20.7%	69 24.2%	
そう思わない	7 13.7%	16 19.8%	12 12.6%	13 22.4%	48 16.8%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	3 3.2%	2 3.4%	7 2.5%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

表 7-1-13 「年齢・配偶者には自分の介護で迷惑をかけたくない」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	10	16	25	27	78
		37.0%	40.0%	34.7%	45.0%	39.2%
	どちらかといえばそう思う	10	14	24	12	60
		37.0%	35.0%	33.3%	20.0%	30.2%
	どちらかといえばそう思わない	6	7	14	7	34
		22.2%	17.5%	19.4%	11.7%	17.1%
	そう思わない	1	3	5	9	18
3.7%		7.5%	6.9%	15.0%	9.0%	
不明・無回答	0	0	4	5	9	
	0.0%	0.0%	5.6%	8.3%	4.5%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	27	36	24	23	110
		52.9%	44.4%	25.3%	39.7%	38.6%
	どちらかといえばそう思う	16	29	45	20	110
		31.4%	35.8%	47.4%	34.5%	38.6%
	どちらかといえばそう思わない	4	7	13	5	29
		7.8%	8.6%	13.7%	8.6%	10.2%
	そう思わない	3	8	9	8	28
5.9%		9.9%	9.5%	13.8%	9.8%	
不明・無回答	1	1	4	2	8	
	2.0%	1.2%	4.2%	3.4%	2.8%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-1-14 「年齢・高齢期にはできるだけ自立した生活をしたい」

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	19	31	47	46	143
		70.4%	77.5%	65.3%	76.7%	71.9%
	どちらかといえばそう思う	8	9	20	9	46
		29.6%	22.5%	27.8%	15.0%	23.1%
	どちらかといえばそう思わない	0	0	1	1	2
		0.0%	0.0%	1.4%	1.7%	1.0%
	そう思わない	0	0	0	0	0
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
不明・無回答	0	0	4	4	8	
	0.0%	0.0%	5.6%	6.7%	4.0%	
合計	27	40	72	60	199	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
女性	そう思う	40	69	65	35	209
		78.4%	85.2%	68.4%	60.3%	73.3%
	どちらかといえばそう思う	10	10	25	20	65
		19.6%	12.3%	26.3%	34.5%	22.8%
	どちらかといえばそう思わない	0	0	1	2	3
		0.0%	0.0%	1.1%	3.4%	1.1%
	そう思わない	0	1	1	0	2
0.0%		1.2%	1.1%	0.0%	0.7%	
不明・無回答	1	1	3	1	6	
	2.0%	1.2%	3.2%	1.7%	2.1%	
合計	51	81	95	58	285	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 7-15 「年齢・高齢期の生活では子どもの助けがあると有り難い」 男**

		年齢				合計
		40-49	50-59	60-69	70-79	
男性	そう思う	3 11.1%	11 27.5%	20 27.8%	29 48.3%	63 31.7%
	どちらかといえばそう思う	10 37.0%	14 35.0%	31 43.1%	12 20.0%	67 33.7%
	どちらかといえばそう思わない	6 22.2%	7 17.5%	10 13.9%	7 11.7%	30 15.1%
	そう思わない	8 29.6%	8 20.0%	7 9.7%	8 13.3%	31 15.6%
	不明・無回答	0 0.0%	0 0.0%	4 5.6%	4 6.7%	8 4.0%
	合計	27 100.0%	40 100.0%	72 100.0%	60 100.0%	199 100.0%
	女性	そう思う	13 25.5%	18 22.2%	32 33.7%	28 48.3%
どちらかといえばそう思う	21 41.2%	37 45.7%	43 45.3%	20 34.5%	121 42.5%	
どちらかといえばそう思わない	6 11.8%	12 14.8%	9 9.5%	6 10.3%	33 11.6%	
そう思わない	10 19.6%	13 16.0%	8 8.4%	3 5.2%	34 11.9%	
不明・無回答	1 2.0%	1 1.2%	3 3.2%	1 1.7%	6 2.1%	
合計	51 100.0%	81 100.0%	95 100.0%	58 100.0%	285 100.0%	

(調査に使用した調査票)

☆はじめにすべての方にお伺いします。

問1. あなたご自身が、将来に介護が必要な状態になるかもしれないと、不安に思うことがありますか。次の中から1つを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|----------|----------------------|
| 1. よくある | 2. 時々ある |
| 3. あまりない | 4. まったくない |
| 5. わからない | 6. すでに介護が必要な状態になっている |

問 2. ではあなたご自身ではなく、あなたのご家族が将来に介護が必要な状態になるかもしれないと、不安に思うことがありますか。次の中から1つを選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------|----------------------|
| 1. よくある | 2. 時々ある |
| 3. あまりない | 4. まったくない |
| 5. わからない | 6. 現在、介護が必要な状態の家族がいる |
| 7. 家族はいない | |

問 3. 高齢期の生活の場所をおたずねします。仮にあなたがまだ元気な場合、どこに住みたいですか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 自宅 | 2. 子の住宅 |
| 3. 介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム | |
| 4. その他（具体的に： _____） | |

問 4. では仮にあなた自身が軽い介護が必要な状態になった場合、あなたはどこに住みたいですか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 自宅 | 2. 子の住宅 |
| 3. 介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム | |
| 4. その他（具体的に： _____） | |

問5 では仮にあなた自身が重度の介護が必要な状態になった場合、あなたはどこに住みたいですか。次の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 自宅 | 2. 子の住宅 |
| 3. 介護が可能な高齢者住宅や有料老人ホーム | |
| 4. 特別養護老人ホームや老人保健施設 | |
| 5. その他（具体的に： _____） | |

問 6. あなたは介護保険制度の内容や利用方法についてどの程度、知っていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. よく知っている
2. ある程度知っている
3. あまり知らない
4. まったく知らない

問 12. 前問で「非常に不安を感じる」「多少不安を感じる」と答えた方にお伺いします。具体的にどのようなことに不安を感じますか。次の中から、あてはまるものに○をいくつかつけてください。

1. 介護のために自分の肉体的・精神的負担が大きくなること
2. 介護のために自分の時間が拘束されること
3. 介護に伴い経済的な負担が増すこと
4. どのように介護をしてよいかわからないこと
5. どのような介護サービスを利用できるかわからないこと
6. 介護がいつまで続くかわからないこと
7. 介護を続けられるかどうかわからないこと
8. 介護を手助けしてくれる人がいないこと
9. その他（具体的に： _____)

問 13. あなたが実際に介護をすることになった場合、現在の仕事を続けることができますか。次の中から、あてはまるものに○をつけてください。

1. 続けられる
2. 続けられない
3. わからない
4. 現在、仕事をしていない

***「続けられない」と答えた方は主要な理由を下のかっこ内にお書きください。**

理由：(_____)

☆ここからはすべての方にお伺いします。

問 14. ご家族を介護することになった場合の働き方について、あなたはどのようにお考えですか。現在介護をしている方、近い将来に介護する可能性がないと思う方、また現在仕事をしていない方も、望ましいと思う働き方について、あなたの考えに最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

1. 今の仕事を辞め、介護に専念する
2. 施設に入所できるまで介護休業制度を利用して介護をし、その後に仕事に復帰する
3. 介護のための短時間勤務などの支援制度を利用して介護に対処し、仕事を続ける
4. 仕事の仕方を特に変えず、年次有給休暇などで介護に対処し、仕事を続ける
5. その他（具体的に： _____)

問 15. あなたは、勤務先の介護に関する支援制度について、どの程度知っていますか。次の中から、1つを選んでください。

1. どのような制度があるかは知っており、内容もおおよそわかる
2. 制度があることは知っているが、内容はわからない
3. 制度があるかどうか知らない
4. 制度はない
5. 勤め人ではない（自営業・無職）

問 27. 介護を続けるにはいろいろな対処力が必要だといわれます。以下にいくつかの対処力の例を示しました。これまでの介護の経験を振り返ると、それぞれについて、あなたの場合はどのような状況ですか(どのような状況でしたか)。右の欄の番号(1, 2, 3, 4)のうち、いずれか1つ選び、○をつけてください。

1 そう思う	2 どちらかといえ ばそう思う	3 どちらかといえ ばそう思わない	4 そう思わない
-----------	-----------------------	-------------------------	-------------

1. 食事や排せつなどの介護の仕方をわかっている／いた	1	2	3	4
2. 要介護者の状態や変化にあわせて対応をしている／いた	1	2	3	4
3. 要介護者の状態の急変時の対応策を考えている／いた	1	2	3	4
4. 自分の生活の仕方を自分なりに工夫している／いた	1	2	3	4
5. 無理をせず、できる範囲で介護するようにしている／いた	1	2	3	4
6. 自分の体力を保つため睡眠や食事等に気を配っている／いた	1	2	3	4
7. 自分の好きなことをして気分転換をしている／いた	1	2	3	4
8. ストレスを感じたとき解消する方法をもっている／いた	1	2	3	4
9. 自分だけの時間をもつことができている／いた	1	2	3	4
10. 一人で何でもやろうとせず、人に協力を頼んでいる／いた	1	2	3	4
11. 介護を手伝ってくれる家族や親戚・近所の人がいる／いた	1	2	3	4
12. 介護の大変さや辛さを理解してくれる人がある／いた	1	2	3	4
13. 辛いときは泣いたり怒ったりしている／いた	1	2	3	4
14. 自分で自分をほめたり励ましたりしている／いた	1	2	3	4
15. 介護の苦労や悩みを人に聞いてもらっている／いた	1	2	3	4

☆ここから最後の頁まではすべての方への質問です。

問 33. 介護に関しては、いろいろな考えがあります。以下に例として、いくつかの考え方を示しました。それぞれについて、あなたはどのように考えますか。右の欄の番号(1, 2, 3, 4)のうち、いずれか1つに○をつけてください。

1 そう思う	2 どちらかといえ ばそう思う	3 どちらかといえ ばそう思わない	4 そう思わない
-----------	-----------------------	-------------------------	-------------

1. 介護は誰の身にも起こり得る普通のことである	1	2	3	4
2. 介護は自分を犠牲にしないとできない部分がある	1	2	3	4
3. 在宅で家族の介護をしている人は立派である	1	2	3	4
4. 家族の介護は正当に評価されるべきである	1	2	3	4
5. 家族の介護は適当な対価を受けてよい	1	2	3	4
6. 家族の介護に家族が関わるのは当然である	1	2	3	4
7. 親が自分の介護を子に期待するのは当然である	1	2	3	4
8. 親の介護を子がするのは当然である	1	2	3	4
9. 子どもには自分の介護に関わってほしい	1	2	3	4
10. 子どもには自分の介護で迷惑をかけたくない	1	2	3	4
11. 配偶者の介護を配偶者がするのは当然だ	1	2	3	4
12. 配偶者には自分の介護に関わってほしい	1	2	3	4
13. 配偶者には自分の介護で迷惑をかけたくない	1	2	3	4
14. 高齢期にはできるだけ自立した生活をしたい	1	2	3	4
15. 高齢期の生活では子どもの助けがあると有り難い	1	2	3	4

問 34. あなたは家族への介護に対して、どのような制度的な仕組みがあるとよいと思いますか。次の中から、あるとよいと思うものにいくつでも○をつけてください。

1. 家族の専門介護者が介護を離れて休養や休暇を取れる仕組み
2. 資格を取得すれば介護労働者として有給で家族を介護できる仕組み
3. 家族の介護が職歴・キャリアとして認められるような仕組み
4. 家族の介護のために離職した専門介護者が所得を補償される仕組み
5. ボランティアの人に介護の支援を頼める仕組み
6. 家族の介護をした人が相続で寄与分を認められる仕組み
7. その他（具体的に： _____)

問 35. これからは介護予防が重要だといわれます。あなたはふだん、健康のために気をつけていることがありますか。

1. ある
2. ない→問 37 へ

問 36. 前問で「ある」と答えた方にお伺いします。それはどのようなことですか。次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。「ない」と答えた方は問 37 へ進んでください。

1. 食事の摂取量や栄養バランス
2. 適当な運動をする
3. 家に閉じこもらないでなるべく外出する
4. 歯や歯ぐきの健康を保つ
5. 睡眠を十分にとる
6. タバコを控える
7. 飲酒は適量にする
8. 規則正しい生活をする
9. ストレスを上手に解消する
10. その他（具体的に： _____)

問 37. あなたの現在の健康状態は次のうち、どれにあてはまりますか。

1. よい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. よくない

問 38. では 10 年前と比べて、あなたの健康状態はどのように変化しましたか。

1. よくなった
2. 変わらない
3. 悪くなった
4. わからない

問 39. あなたは過去 1 年間に健康診断を受けたことがありますか。

1. 受けた
2. 受けなかった

問 40. あなたは現在、病院や医院、整体施術所や鍼灸院に定期的に通っていますか。

1. 通っている
2. 通っていない

問 47. 昨年の「あなたの世帯の年収」をうかがいます。次の中から、あてはまる番号に○を1つ、つけてください。

1. 100万円未満
2. 100～200万円
3. 200～300万円
4. 300～400万円
5. 400～500万円
6. 500～600万円
7. 600～800万円
8. 800～1000万円
9. 1000万円以上

問 48. あなたにはお子さんがいますか。成人したお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。

1. 息子がいる
2. 娘がいる
3. 息子と娘がいる
4. 子どもはいない

問 49. 現在のあなたの世帯はこのように分類した場合、次のどれにあたりますか。

- a. 1人世帯
- b. 1世代世帯（夫婦だけ）
- c. 2世代世帯（親と子）
- d. 3世代世帯（親と子と孫）
- e. その他（具体的に： _____）

問 50. あなたを含めたご家族の中に、65歳以上の方はいますか。いる場合には同居か別居かについてもお答えください。

1. いる（a. 同居 b. 別居 c. 両方にいる）
2. いない

問 51. 現在お住まいの住居は次のうち、どれにあてはまりますか。

1. 持ち家
2. 賃貸住宅
3. 社宅・官舎・寮
4. その他（ _____ ）

問 52. あなたの出生地はどこですか。

1. 東広島市（合併前の町を含む）
2. 広島県内の他市町村
3. 広島県外の他市町村

ご協力、誠にありがとうございました。

調査のメンバーと執筆分担

(「社会環境調査Ⅰ」・「社会環境調査Ⅱ」の授業と集計作業・分析作業の参加者)

倉内悠人	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第1章)
池原惇介	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第2章)
野平真依	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第3章)
繁原右京	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第4章)
林 千晶	広島大学法学部法学科 3年 (第5章)
平野琢也	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第6章)
永井千晶	広島大学総合科学部総合科学科 3年 (第7章)

指導教員

材木和雄 広島大学大学院総合科学研究科教授・専門社会調査士

発行日 2015年3月31日

発行者 広島大学総合科学部社会文化プログラム

住所 739-0751 東広島市鏡山1-7-1

広島大学大学院総合科学研究科社会文明研究講座